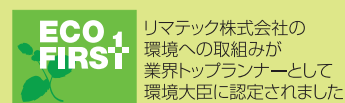




REMATEC 2011 CSRレポート

リマテック株式会社
<http://www.rematec.co.jp>



Innovation for the Earth

廃棄物リサイクルという領域にとどまらず、
持続可能な社会システム実現のために、
パラダイムシフトを促す技術やビジネスモデルの
開発に積極的にチャレンジいたします。

編集方針

昨年の「REMATEC2010」では環境ビジネスを生業としている当社にとってのCSRとは?を追及し、新生リマテックのCSRコンセプトをみなさまにご紹介しました。

本年度の「REMATEC2011」では、昨年のコンセプトに基づき、組織を再編し、経営・環境・労働安全衛生の各マネジメントシステムを統合したCSR活動計画の進捗状況をステークホルダーのみなさまにご理解いただくため、活動事例を中心にまとめています。

本レポートでは、

- ・「2005-13年度長期経営計画」の事業基盤の整備ステージと位置づけた「2008-10年度中期経営計画」のまとめ
- ・「REMATEC2010」で掲げたCSR活動計画であり、「2005-13年度長期経営計画」の最終、成長ステージと位置づけた「2011-13年度中期経営計画」の進捗状況
- ・それらの活動事例

についてご報告いたします。

なお、本年は3月に発生しました東日本大震災により経営計画に多少の変更が生じていますが、復旧・復興への支援はリマテックの果たすべき社会的責任と捉え、当社が取り組んでいる東日本大震災についてもあわせてご報告いたします。

本レポートの編集に際しては、ステークホルダーのみなさまに読んでいただける紙面づくりを心がけました。

当社はステークホルダーのみなさまに対し、より透明性の高い情報開示の拡充を図っていますが、紙面の制約で掲載できなかった情報や最新の情報などは、ホームページに掲載しています。

環境報告書賞受賞

「REMATEC2010」は2011年2月、東洋経済新報社とグリーンリポーティングフォーラムが主催する、環境報告書賞において「第14回環境報告書賞優良賞」を受賞いたしました。

講評で「リマテック株式会社はミッションを明確にして報告書全体に一貫性があり企業規模に比して十分な開示がなされている」との評価をいただきました。



CONTENTS

編集方針・コンテンツ	01
特集 東日本大震災への取り組み	03
トップコミットメント	07
リマテックのCSR	09

ビジネスマネジメントシステム

RF事業	15
SC事業	16
ネットワーク・物流事業	17
オーナーズ・レップ事業	17
バイオ・エネルギー事業	19
その他トピックス	20

環境マネジメントシステム

EMS活動事例	21
2010年度環境管理活動	22

労働安全衛生マネジメントシステム

OSHMS活動事例	23
2010年度安全衛生活動	24

ステークホルダーとのコミュニケーション

社会貢献活動事例	25
ステークホルダーの声	27
人材育成事例	32
第三者意見	33

データ集

エコ・ファーストデータ	34
環境パフォーマンスデータ	35
環境会計	37
財務データ・人事データ	38

企業情報	39
------	----

東日本大震災における リマテックの取り組み



1. 東日本大震災の発生

2011年3月11日に、東日本大震災が発生、地震と津波により東北地区沿岸部を中心とした太平洋沿岸の幅広い地域が被災し、未曾有の大災害となりました。

岩手県は、リマテックの主要顧客である太平洋セメント株式会社大船渡工場様が操業されている地であり、また2004年より青森・岩手県境における不法投棄現場原状回復事業のお手伝いをさせていただいている、親交の深い地域です。当社では、阪神淡路大震災の震災廃棄物除去業務を請け負った経験から、復興には災害廃棄物処理計画策定のスピードが重要であると感じていました。そこで、発生後間もない3月16日に、秋田経由で岩手県に入り、自治体担当者の方々とさまざまな協議をさせていただくことになりました。



3月20日 大船渡市内



3月21日 陸前高田市内

2. 災害廃棄物処理と当社の支援体制構築

当社の災害廃棄物処理計画では「地元企業様を中心となり、災害廃棄物処理に伴って地域雇用を創出し、その後の地域復興を加速させる」ことを基本方針としました。その上で、早くから地元企業様を中心とした協業体制を確立し、また太平洋セメント株式会社大船渡工場様の協力を得ながら処理計画の策定を進めていきました。

一方、親交が深い岩手県とはいえ、まだまだ地域での実績が不十分な中で、迅速且つ確実な処理を行うためには、地元企業様から認知され、また信頼を得る必要がありました。処理計画を処理業務遂行へといかに早く移行できるか、企業としての企画力と実行力の双方を問われる状況であったともいえます。そこで、4月20日には東北支社を登記して岩手県内での組織的な活動拠点とした上で、全社挙げてのバックアップ体制を確立し、社内リソースを有効に活用できる体制を整備いたしました。

3. 水産廃棄物の海洋投棄

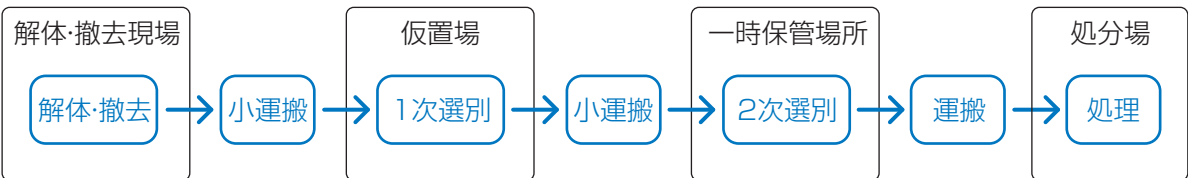
大船渡市や陸前高田市などでは、がれき類だけでなく、水産加工業者の倉庫や工場の被災により発生した水産廃棄物の処理が大きな問題となっておりました。土中に埋める処理が行われているところもありましたが、まだ処理が行えていない場所も多くあり、放置されたまま腐敗した水産廃棄物から発生する臭気やハエなどは、新たな問題として被災者の悩みの種となっておりました。しかし、震災から3カ月あまりが経過したところで、本来条約で禁止されている「水産廃棄物の海洋投棄による処理」が特別に認められました。この決定を受け、海洋投棄を行う準備として手作業による選別作業を行いました。強烈な腐敗臭と害虫が繁殖した水産廃棄物は、廃棄物になれた当社社員でさえ「この臭気は辛い」と漏らすほどのものでしたが、地元建設業協会や被災された水産加工会社の従業員のみなさまのご協力を得て、6月28日に海洋投棄を行うことができました。



4. 災害廃棄物処理の基本的な考え方

災害廃棄物には、木材や金属物など多種にわたる廃棄物が混ざっており、処理を進めるうえで大きな問題となっておりました。しかし、廃棄物処理の基本である「できるだけ早い時期での分別の徹底」が災害廃棄物の安全・迅速な処理においても大切と考え、解体・撤去段階からの分別を徹底するとともに、仮置場や一時保管場所と呼ばれる廃棄物の集積場でも重機や機械と人の手を使った破碎・分別作業を行うなど、迅速処理と高リサイクルの両立を実現できる処理計画を立案・実施を行いました。さらに、倒壊家屋の解体・撤去、解体後の廃棄物の運搬や処理に至るまでの各工程についても、交通渋滞や粉塵、騒音、振動などの発生を極力抑制できる処理計画を策定しました。

解体・撤去～処理基本フロー



仮置場

仮置場(選別ユニット配置)

仮置場(1次選別要領)

- 解体現地より搬入された運搬車両の内容を確認し「分別内容が不十分」な場合は原則として受入しない
- 選別作業1ユニット「15名(作業責任者・誘導員は仮置場1ヵ所固定数)」「重機5台」「4tダンプ2台」とする
- 設定エリアより搬入された災害廃棄物(指定車両)を受入れる(指定置場1の場合A1/A2)
- 災害廃棄物受入は「指定置場1-A1/A2」「指定置場2-B1/B2」「指定置場3-C1/C2」で実施する
- 指定置場で受入できない場合「第1仮置場(2日分の搬入量を仮受け可能)」で仮受ける

仮置場選別作業

被災地域の「災害廃棄物」受入 重機選別(鉄・大型木質・コンクリート) 手選別(プラスチック等可燃物) 手選別(小型コンクリート)

手選別(小型木質) 選別物の分別保管

【仮置場の運用について】

- ・ 仮置場では「木材」「木質混合」「ガラ混合」「鉄」の4種類に選別・保管することで、一時保管場所での2次選別の効率化を図る。
- ※鉄はスクラップ業者が直接回収・処理を実施(市⇄スクラップ業者)
- ・ 市域に設定された各仮置場の保管量を考慮し、仮置場間の持ち越しを実施し、解体～撤去計画に遅れが出ないように調整する。
- ・ 一時保管場所の保管量・選別量を計画通りに推移させるために、仮置場での選別及び出荷量をコントロールする。

一時保管場所(2次選別)



市内1ヵ所に設置された一時保管場所では、仮置場から搬入された災害廃棄物の数量管理、処分及び再利用先に応じた選別、選別後の搬出数量の管理を行っています。

5. 今後に向けて

災害廃棄物の処理は、発生から半年近くを費やし、やっと本格的な作業工程をスタートするに至ったところです。被災地の復興のためには1日も早く災害廃棄物を処理・処分することが求められます。現計画では2014年3月に処理終了する計画となっていますが、これを1日でも早く終了し、被災者のみなさまの希望へとつなげていくことが私たちの使命だと考え、地元企業様と一緒に取り組んでまいります。



環境分野における 社会的課題に対応する イノベーションを創出すること リマテックのミッション

リマテック株式会社
代表取締役社長

田中正敏

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。

東日本大震災により多くの方の尊い命が失われたことに、深い哀悼の意を捧げます。

また、被災されましたみなさまに心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今回の地震・津波による被害は阪神淡路大震災を体験した私たちにとりましても、想像を絶する大災害でありました。

震災発生直後、当社も先発隊を現地に派遣し、不足していた燃料手配などの被災地支援を行いました。と同時に、復旧・復興の第一歩は災害廃棄物の“迅速”な処理であると考え、処理計画の準備を進めるために4月には岩手県盛岡市に東北支社を開設し、現在までに数十名を派遣し廃棄物処理の技術的なサポートにあてております。

東北支社の開設にあたりましては、多くの社員が各部門から異動となり、通常ならば業務に支障をきたすところですが、残った社員も日常業務を着実に遂行する事が被災地への支援に繋がる、との想いで日々頑張っております。「災害廃棄物処理という社会的課題を解決する」ことは、当社のミッションであり、社会的責任「CSR」であるとの意識を社員全員が共有しているからだと感じております。

当社の提案する処理計画は地域第一が基本です。「地域による、地域復興」を念頭に地元企業を中心とした、災害廃棄物処理を推し進めています。まだスタートしたばかりですが、阪神淡路大震災での瓦礫処理の経験と廃棄物処理に関する豊富なノウハウを活かし、地域復興のお役に立ちたいと考えております。

詳細は本レポート巻頭特集「東日本大震災におけるリマテックの取り組み」をご一読ください。

当社では以前より、2008-2010年の中期経営計画の重点目標である「技術・ノウハウのストック、人材の確保と育成」に注力してきました。2001年から開催している全社安全衛生会議に加え2008年からは全社営業会議、全社生産技術会議を年4回開催、また公募型研修として2009年よりリマテックみらい塾を実施しております。みらい塾は一流講師人による環境分野における社会的な課題をグローバルな視点での講義やディスカッションを通じて、「自分で考える力」を身につけることを趣

旨に行っております。

また、幹部社員を中心にした研修として次世代ボード研修を実施しており、研修の一環として2011-2013年度の中期経営計画作成にも参画しました。この研修により、マネジメント能力やコミュニケーション能力の向上、また情報の共有化に伴う意識改革や業務のスピードアップなどの成果につながってきています。

昨年4月に社名変更を行うとともに、コーポレートスローガンに「Innovation for the Earth」を掲げ、当社のミッションである「環境分野における社会的な課題に対応するイノベーション創出」を推進するために業務間・部門間連携を推進するマトリックス型業務遂行体制に変更し、業務の相互補完が出来るよう5事業4本部の組織体制に編成しました。

この新体制のもと、今後さらに、リマテックの社員一人ひとりが今まで培ってきた知識習得と意識改革の積み重ねに加え、OJT (On the Job Training) の実践による現場力で、社会に役立つ人材に育ってくれることと確信しています。

今後も時流に先んじた次世代環境技術への取り組みとそのイノベーターの創出を積極的にを行い、リマテックのミッションを全うすべく邁進してまいります。

世の中では暗い話題ばかりですが、なでしこジャパンの女子ワールドカップの優勝は、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。その女子力にあやかりまして今年のCSRレポートの編集委員は女性社員を中心に選出しました。誌面に女性らしさが出ているかと思います。

本レポートは今年で12冊目となりますが、編集委員だけではなく、被災地で復興支援に一生懸命取り組んでいる社員や各事業所でリサイクル事業に取り組んでいる社員などリマテック全社員による手作りのレポートです。素人の社員による写真撮影や拙い原稿のため、至らない点多々あるかとは存じますが、皆様方の忌憚のないご意見ご指導を賜れば幸いです。

コーポレートスローガン及びCSRコンセプト

Innovation for the Earth

リマテックのミッション

環境分野における社会的課題に対応する
イノベーションを創出すること



CSRコンセプト

リマテックは、経営指針として、5つのキーワード(信頼性・情報開示・問題解決・リスク管理・統合)を基本とし、経営基盤の安定を図り、循環型社会形成の一躍を狙うと同時にお客様のご期待に応える満足度の高い企業を目指してきました。

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションツールとして2000年に業界内で先駆けてCSRレポート第1版を発行し、今回で12冊目となります。

リマテックは企業理念をもとに、資源循環事業を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。

また、企業理念に基づき2010年4月1日に近畿環境興産からリマテック株式会社へ社名変更し、「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出」を新生リマテックのミッションとして、「Innovation for the Earth」をコーポレートスローガンとして掲げました。

「CSR活動は持続可能であるためにも事業活動を通して行うもの」であることから、リマテックでは生業を通して、イノベーションを創出することが社会の一員としてのリマテックの最大の役割(ミッション)であり、責任であると考え、コーポレートスローガンである「Innovation for the Earth」をそのままCSRコンセプトとし、CSR活動を生業を通じた事業活動と一体のものとして推進することを目指しています。

Recycling Material Technology

理念

技術をコアに地球資源である物質を無駄なく効率よく再生することによって循環型社会構築に貢献する企業を目指す



あるべき社会像

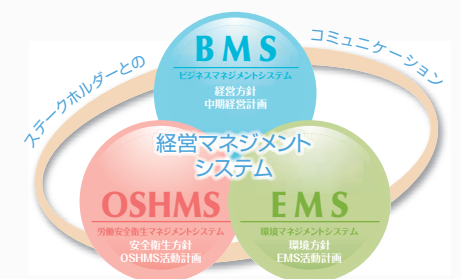
- ・ すべての人が安全に安心して過ごせる社会
- ・ 「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ・ 自然の摂理にかなった循環社会

企業の役割・社会的責任

- ・ 価値創造
- ・ 組織活動が社会に与える影響に責任を持つ
- ・ 社会的課題の解決に貢献する

マネジメントシステム

リマテックでは、CSR活動を事業活動と一体のものとして推進することを目指し、「環境分野における社会的課題の解決」をキーワードに、ビジネスマネジメントシステム(BMS)、環境マネジメントシステム(EMS)、安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の3つのマネジメントシステムの統合に取り組んでいます。日々の事業活動及び課題を解決することにより、環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出のミッション達成を目指しています。



リマテックのCSR

OUR CSR

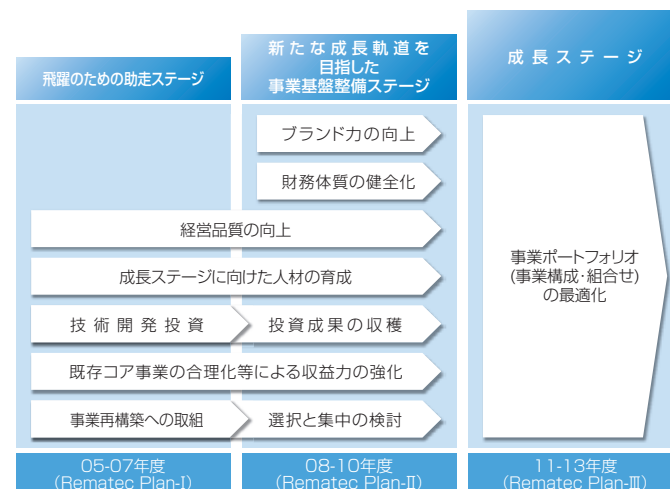
リマテックの中長期経営計画

リマテックは、2005年3月に長期ビジョンを策定し、2005年4月より10年後のあるべき企業として

- ゼロエミッションエンジニアリングサービスを提供することができる企業
- 環境変化に柔軟に対応できる最適事業ポートフォリオを構築し、安定的に成長を続けることができる企業
- 従業員一人ひとりが誇りと希望を持ち、創造性とチャレンジ精神を発揮できる企業

の3つを掲げ取り組んできました。

この長期経営計画の最終年度を迎え、前中期経営計画「安定成長基盤の確立」に対し、大きく成果をあげた点もあれば、反省すべき点も多々ありますが、これまでの成果と課題を総括し、最終章である「成長ステージ」へと邁進してゆきます。



Innovation for the Earth 新生リマテック

Zero Emission Engineering Company



2011-2013 中期経営計画 成長ステージ

- ▶ 意識改革
- ▶ スピードアップ
- ▶ 組織資産のストック
- ▶ 人材の成長を促す仕組みづくり

2008-2010 中期経営計画 新たな成長軌道を目指した事業基盤の整備

- ▶ 財務体質の健全化
- ▶ 技術・ノウハウのストック
- ▶ 人材の確保と育成
- ▶ 内部統制システムの強化

2005-2007 中期経営計画 飛躍のための助走ステージ

- ▶ 収益力と強化と安全の強化

2008-2010年度 中期経営計画

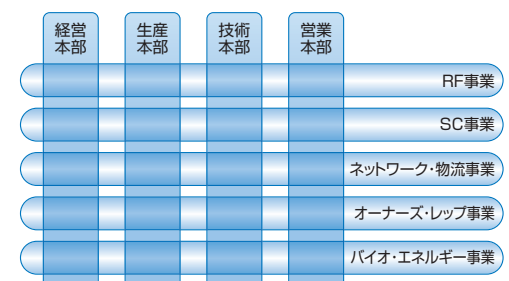
コンセプト		新たな成長基盤を目指した事業基盤の整備			
目 標		実施結果と評価		評 価	次期中期経営計画の課題
財 務 体 質 の 強 化	RF事業の更なる収益力強化	大阪工場…△	08年12月以降のリーマンショック後、入荷カロリーの低下傾向のために補填用の原材料費が増加し収益を圧迫	△	自己資金による設備投資が可能な会社とは言えず、事業の選択と集中による黒字化を図る
		九州工場…○	入荷量は減少したが、経費の削減で高安定収益を確保		
	堺工場の黒字化	堺 工 場…×	脱塩事業から撤退し、新たに硝酸再資源化事業を立ち上げるが実績不足		
技 術・ノウハウ の ス ト ッ ク	技術・ノウハウの共有化	技術本部…△	大型プロジェクトを受注し収益は向上	○	積み上げてきた技術力とネットワーク力の更なる充実と共有化を図り、総合環境事業を目指す
	技術・ノウハウのラインナップ構築		各プロジェクトの取り組みにより、産業廃棄物の不法投棄やPCB等による汚染の環境修復技術は社内外に認知された		
人 材 の 確 保 と 育 成	人材育成		次世代ボードメンバーの選出と教育、みらい塾の継続的な実施	○	人材確保の面からの事業基盤整備は出来たが成果はこれからの課題 人材の成長を促す仕組みづくりを図る
	技術系人材の確保		研究開発・分析要員として技術本部で08年度～10年度累計15名の人材を確保		
	大卒新卒の採用	△	09年度3名(技術、営業、生産)、10年度4名(技術、生産)を採用		
内 部 統 制 システムの強化	社内規程の整備	△	法改正に合わせた随時変更やローカルルール随時統一の実施	△	規程類、ルールの見直しと改善を随時図る 効率化、共有化の推進を図る為、より良いITの活用を目指す
	社内会計ルールの整備	×	社内間振替等にバラツキが残る		
	社内ITシステムの見直し	×	グループウェアの随時バージョンアップを実施したが、導入初期の混乱や導入後の調整が多々発生し、改善の余地が残る		
	顧客データベースの整備	△	「eセールスマネージャー」導入実施 データベースの整備及び利用頻度は事業所間でバラツキが有る		

2011-2013年度 中期経営計画

最終章である成長ステージとして、2011年度より事業ポートフォリオ(事業の再編及び組織改革)の最適化を行いました。2011-2013年度中期経営計画では、「意識改革」「スピードアップ」「組織資産のストック」「人材成長を促す仕組みづくり」をキーワードとし、効率的な業務遂行、事業間/部門間連携によるシナジー創出を狙った機能別組織体系の構築により、各本部が各事業に対してそれぞれ専門分野でコミットするマトリックス型業務遂行体制としました。5事業×4本部による社内外の新たなコラボレーションネットワークを構築し、業際分野の取り込みによる事業領域の拡大等を図り、環境先進企業として環境分野における社会的課題の解決に積極的に取り組むことを目指します。

成長ステージ

- ▶ 意識改革
- ▶ スピードアップ
- ▶ 組織資産のストック
- ▶ 人材の成長を促す仕組みづくり



環境分野における社会的課題

-  気候変動/地球温暖化の防止
-  資源循環の推進
-  化学物質等による環境汚染の防止
-  土壌汚染・水質汚濁の防止
-  製品サービスの環境負荷低減
-  生態系/生物多様性の保全
-  廃棄物の削減
-  省エネルギーの推進
-  新エネルギーの利用・促進
-  輸送に伴う環境負荷低減

「2011-2013年度 中期経営計画」とCSR活動

リマテックでは「中期経営計画5事業における重要課題の達成目標=CSR活動目標」として、「2011-2013年度中期経営計画」をスタートさせました。
当経営計画は、当社の「環境分野における社会的課題に対応するイノベーション創出」というリマテックのミッションの担い手である幹部社員を中心に社員参画型で策定し、5つの重要事業毎に策定した「課題解決計画」に基づいて取り組

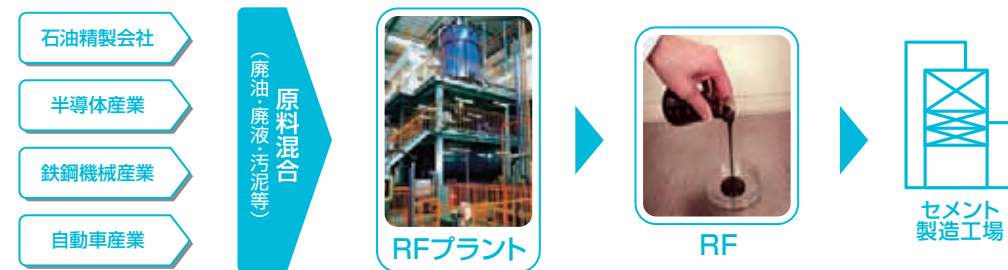
みを開始しました。
2011年度上期においては、目標達成の核となる技術・システム開発、実際に発生する社会的課題などへの対応による事業コンセプト、実現に向けた課題の有効性確認、拡充に着手しました。

事業活動とリンクしたCSR活動計画

事業区分	中期経営計画 重要課題	内 容	2011年度上期実績	今後の課題
RF事業 	生産原価コストの削減	RF製造時に使用する原料油の使用量を削減することで、化石燃料削減、製品の環境負荷低減に貢献する	RF製造時に使用する原料油の代替物として、我が国の基幹産業で発生する廃棄物をRF製造時の原料油として使用するための技術開発に着手	早期実用化に向けた実証実験
	生産量の増加	廃棄物を原料としたRFの生産量を増加することで、化石燃料削減、資源循環の推進、廃棄物の削減、新エネルギーの利用促進に貢献する	代替原料油開発技術による新たなRF化可能な廃棄物の種類・量の確保によるRF生産量増加の見込みと代替製品利用に必要な関連材料確保計画の検討	導入効果のある事業者の探索と当該技術の効果などに関する情報提供活動の推進
	RFのバイオ化	バイオマス系廃棄物のRF原料利用量を増加することで、燃焼時のGHGを削減することができ、化石燃料削減、資源循環の推進、廃棄物の削減、新エネルギーの利用促進に貢献する	大学発ベンチャーとの共同研究による適用技術の探索と可能性評価に着手	適用候補技術の可能性評価のスピードアップ
SC事業 	廃棄物入荷量の確保	金属洗浄等で使用された廃硝酸の入荷量および再生品製造量を増加することで、パージ硝酸製造時に発生するGHGの削減、資源循環の推進、廃棄物の削減、製品の環境負荷低減に貢献する	廃硝酸排出事業者への当事業の提案による事業化着手	ユーザー候補企業への有用性に関する情報発信による当該事業の普及
	生産原価原単位の向上	再生硝酸製造時に使用する薬品および蒸気の使用量を削減することで、化石燃料削減、化学物質等による環境汚染の防止、土壌汚染・水質汚濁の防止、製品の環境負荷低減に貢献する	当面の入荷量対応のための設備投資実施	原単位向上に向けた副資材使用量削減、エネルギー効率向上に関する検討強化
	フッ硝酸再生事業の立ち上げ	金属洗浄等で使用された廃フッ硝酸の入荷量および再生品製造量を増やすことで、パージ硝酸製造時に発生する温室効果ガスの削減、資源循環の推進、廃棄物の削減、製品の環境負荷低減に貢献する	半導体関連産業でのフッ硝酸再生事業モデルの実証	ユーザー候補企業への当事業の有用性に関する情報発信による当該事業の普及 複数事業モデルの検討
ネットワーク・物流事業 	エリアモデルの構築	モデルとするエリアを設定し、廃棄物および再生資源にかかる物流の効率化に取り組むことで、燃料使用量削減、資源循環の推進、省エネルギーの推進、輸送に伴う環境負荷低減に貢献する	アライアンスネットワークを活用した総合物流会社を設立し、情報とノウハウの共有によるエリアモデルの実証的検討実施	エリアモデルのブラッシュアップと具体的な事業拡大計画の検討（地域と事業規模）
	顧客価値の確保・創出	廃棄物再資源化に取り組んできた経験、ノウハウを活用し、プロの目による顧客の廃棄物有効利用を提案、コンサルティングを行うことで、資源循環の推進と廃棄物の削減に貢献する	ノウハウ共有のための手順書作成開始 新しい輸送手段による廃棄物物流を開始 事業運営に関する当社との情報共有化のための新システム導入の検討	当社のネットワーク物流事業のメリットを情報発信し、地域の関連事業者と連携した普及・貢献を推進
	ネットワーク管理システムの構築	自社およびアライアンス先との情報共有を促進するシステムを構築することで、廃棄物有効利用における効率を上げ、燃料使用量削減、資源循環の推進、省エネルギーの推進、輸送に伴う環境負荷低減に貢献する		顧客価値の確保・創出等に有用な共有すべき情報の明確化とアライアンス先とのトータルネットワーク管理システムの検討による効果の最大化
オーナーズ・レップ事業 	保有技術のレベルアップ	廃棄物再資源化に取り組んできた経験、ノウハウを中心に、省資源、省エネルギーのプロの目による顧客の環境分野での課題解決を提案、実行することで、環境分野全般における社会的課題解決に貢献する	東日本大震災への支援活動として、当社のノウハウの提供 半導体関連既存顧客への新たな再資源化事業提案	東日本大震災支援の継続とノウハウのストック 類似事業への参画に向けた課題の抽出と具体的提案計画の検討
	不足リソースの充填	省資源、省エネルギーのプロを育成し、顧客の環境分野での課題解決を提案、実行することで、環境分野全般における社会的課題解決に貢献する	コンサルティング力、システム設計力、処理施設運営管理能力等の拡充強化に向けて、社内ベテラン層を中心に再配置を実施し、不足人材の採用を実施	当事業の情報発信を含めた提案力と展開のための体制整備 不足リソース拡充に向けた人材開発システムの開発
	アライアンス先の確保	環境分野の社会的課題を解決する技術やノウハウを保有する企業とのアライアンスを積極的に行い、顧客に対して提案できるメニューを充実させることで、環境分野全般における社会的課題解決に貢献する	東日本震災対応で地元関連事業者と協力	国内外の関連案件への取り組みを通じたアライアンスモデルの蓄積とアライアンス推進機能の開発
バイオ・エネルギー事業 	開発スペックの明確化と達成		亜臨界水処理による都市型メタン発酵装置の開発完了 亜臨界水処理による下水汚泥メタン発酵装置FS実施	亜臨界水処理以外の候補基盤技術の評価・検討の具体化 RF事業対応バイオエネルギー技術開発計画の検討
	知的財産ライセンス戦略	亜臨界水前処理-メタン発酵プロセスを実用化することで、廃棄物由来の未利用エネルギーを活用することが可能となり、GHGの削減、資源循環の推進、廃棄物の削減、新エネルギーの利用促進に貢献する	当社保有知的財産の棚卸実施	候補基盤技術に関する公開特許マップによる、技術獲得戦略と開発技術テーマの検討
	ビジネスモデルのブラッシュアップとアライアンス先の確立		民間事業者へ亜臨界水処理による都市型メタン発酵装置導入に向けた共同研究と装置販売	導入実績を踏まえた、アライアンス候補企業のリストアップとアライアンスモデルの検討

RF事業

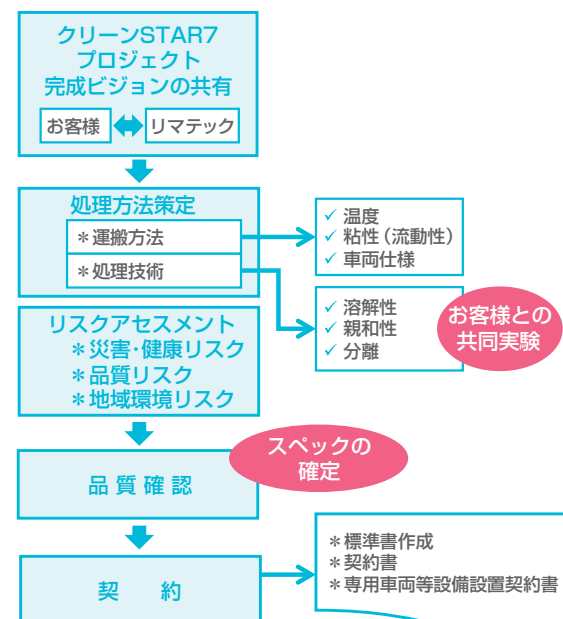
各企業から排出される廃油、汚泥、廃液などの産業廃棄物を、当社独自の製造技術(チキソトロピー性を付加)によって再生燃料“RF”を製造。石炭代替燃料として主にセメント工場等に販売。化石燃料削減並びに温室効果ガス(以下「GHG」)という削減に貢献する当社のコア事業として現在、大阪工場/九州工場で各RFプラントが稼働、平均リサイクル率97%を誇る。



RF Reclaiming Fuel=再生された燃料可逆性チキソトロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物(特許第3039644号)

RF TOPICS クリーンSTAR7プロジェクト

これまでのリマテックの技術力では対応できなかったお客様の処理困難物の有効活用を図るために2010年4月、開発プロジェクトを立ち上げました。約2年間、再資源化の検討・テストを重ね、ついに有効活用への道筋をつけることができました。お客様の問題解決に向け挑戦し、お客様のゼロエミッションの推進に貢献できました。

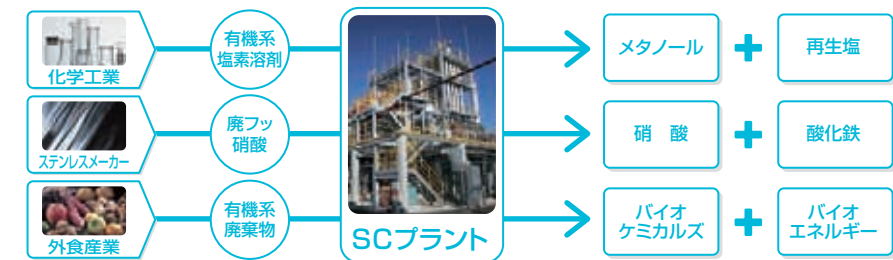


リマテックの コア事業

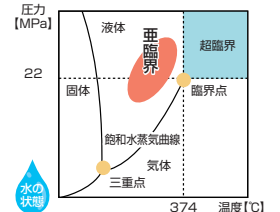
SC事業

次世代 資源循環技術

お客様の処理困難な廃棄物を高温高圧下での亜臨界水反応を用いて再資源化する当社の新たな資源循環事業。2006年世界初の商用プラントとして事業開始以来、GHG削減や製品の環境負荷低減に貢献。

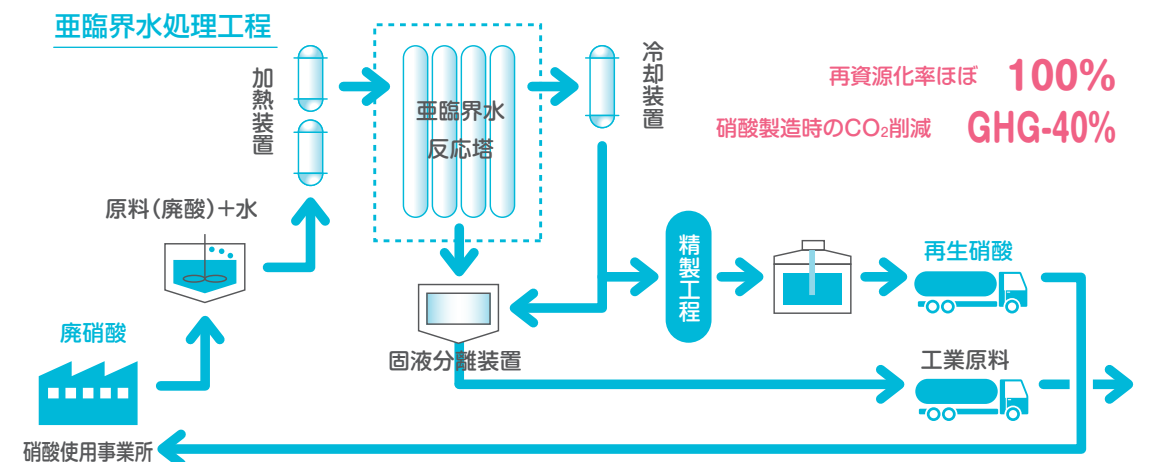


水の温度・圧力を374℃・22MPa以上まで上げると、水(液体)でも水蒸気(気体)でもない状態となります。この点よりもやや低い近傍の領域を亜臨界水(250℃、5MPa)と呼びます。亜臨界水は、有機物の溶解作用と強い加水分解作用といった特徴があり、この亜臨界水の性質を利用することで、環境に優しい廃棄物の再資源化が可能です。



SC TOPICS 硝酸再生事業

鉄鋼産業や半導体産業などから排出される硝酸廃液は、硝酸と金属が結合した形で存在しています。この硝酸廃液は亜臨界水技術により硝酸と金属に分離されます。分離された硝酸は再生硝酸として販売しています。また、回収された金属酸化物も工業原料として再資源化します。この事業は硝酸を循環利用することにより、一般的な硝酸製造方法に比べて約4割のGHGの削減効果があります。



フッ硝酸の再生利用～硝酸事業の応用～

現在、廃硝酸だけでなくフッ硝酸などの混酸廃液の再資源化にも取り組んでいます。処理プロセスとして、薬剤の添加により、混酸中のフッ酸を0.05%以下に除去し硝酸を再資源化します。



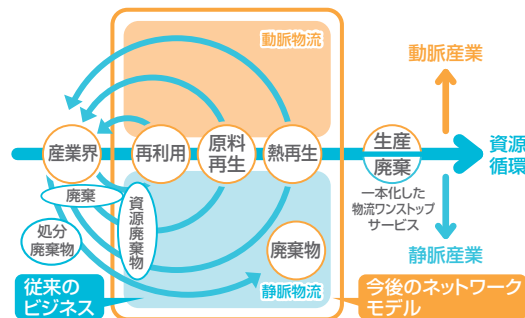
ネットワーク・物流事業

リマテックの「廃棄物のプロ」の目による診断力と幅広いアライアンス・ネットワークを活用しお客様に最適なゼロエミッションを提案し、高効率省資源型循環ネットワークモデルの構築を目指した事業。

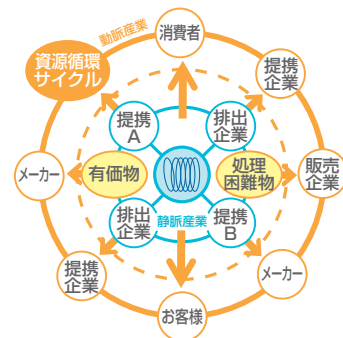
さらに、廃棄物などをリサイクルする静脈産業と原料・製品・エネルギーを供給する動脈産業との技術とノウハウを一体化した「ワンストップサービス」を提供することにより、効率的な資源循環の推進と廃棄物の削減に貢献する事業である。

高効率 サービスイノベーション

ネットワーク物流事業の全体像



NW TOPICS RTT株式会社の分社化



産業間のワンストップサービス

資源循環型社会推進の第一歩として、静脈物流におけるリマテックの長年の経験とノウハウを活かすことが出来る運輸部門を分社化し、動脈物流において経験豊富な企業の資本と一体化し、コラボレーションすることによって産業廃棄物収集運搬だけでなく総合物流会社としてRTT株式会社を設立いたしました。RTT株式会社の社名は、物流を主とした総合商社を目指して「Rematec Transit Trade」の頭文字をとりました。

この分社化により、アライアンス先との情報共有を促進するシステムが構築でき、新たなイノベーションサービスの創出を可能とします。さらに、物流の効率化により、低炭素・資源循環型社会推進に貢献していきます。

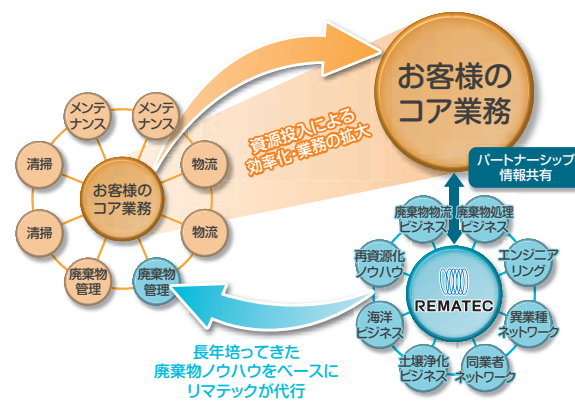
オーナーズ・レップ事業

当社の技術力と豊富な実績・長年培ったノウハウによりお客様の抱える様々な課題を解決し、環境分野全般におけるコンサルティング、プラント設計/施行、技術開発、現場管理や運転代行などのサービスを提供。

リマテックがお客様のコアビジネス、またサブビジネスを代行することによる、更なる競争力強化の支援及び資源循環・省エネ計画等を提案。

ますます高度・多様化していく環境・エネルギー関連のトータルコーディネーターとして、低炭素・資源循環型社会への貢献を目指した事業。

現場力と技術力の融合 トータルコーディネーション



OR事業の実績



OR TOPICS 無機汚泥の有効利用

半導体製造工場から排出される無機汚泥に付加価値を付ける取り組みを鉄鋼会社様の協力により行っています。鉄鋼会社様の技術力とリマテックの廃棄物処理ノウハウとをコラボさせることで、現在セメント会社で処理している産業廃棄物の資源化を目指しています。

この取り組みが実現すれば、お客様の抱える問題解決に加え、資源循環にも貢献できると考えています。

フィッシュミール事業化

廃棄物として排出される魚あらは、フィッシュミール工場などで魚油や魚粉にリサイクルされています。リマテックは、この魚油を亜臨界水反応を用いて高付加価値化する技術開発に成功しました。

この技術を導入した事業提案を岸和田フィッシュミール工場に行い、現在同工場のプラント更新工事の設計・施工を行っています。

サルベージ事業(2011年1月)

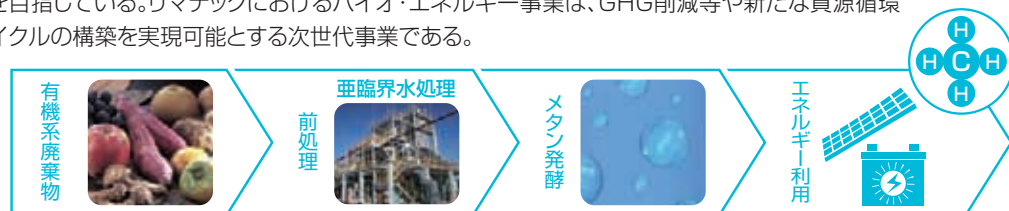
中国・大連から鋼材やパイプなど約3千トン積んだパナマ船籍の貨物船が、金沢港大野灯台から約1.7キロ北の防波堤付近で座礁。この事故で船内に残った燃料油約400KLの回収をし、そのうち約300KLを、当社RFプラントにて処理いたしました。

貨物船「BOHAI CHALLENGE」(8708トン)

バイオ・エネルギー事業

次世代エネルギー

自然エネルギーやバイオマスエネルギーなど次世代エネルギーが注目されている中、リマテックは2001年から行ってきた有機系廃棄物の再資源化技術の研究を基に、物理化学反応と生物化学反応をコラボレーションした亜臨界水前処理ーメタン発酵プロセスの実用化に重点を置き、従来のエネルギーに代わる廃棄物由来の未利用エネルギーを効率よく利用することを目指している。リマテックにおけるバイオ・エネルギー事業は、GHG削減等や新たな資源循環リサイクルの構築を実現可能とする次世代事業である。



当社では、地球温暖化の防止、資源循環の推進、廃棄物の削減、新エネルギーの利用・促進を目指し、お客さまから排出される廃棄物に対し、再資源化提案のための技術開発を行っています。この研究の事業化までのスピードアップを図るため、オープンイノベーションにより、共同研究を推進しています。また、当社の研究内容が、様々な公的機関に認められ、より実用化につながる研究開発の支援をいただいています。



BE TOPICS

都市型メタン発酵システム向け亜臨界水利用撈面式可溶化装置開発

(独立行政法人 科学技術振興機構 平成21～22年度「研究成果最適展開支援事業」採択)

これまでの研究開発で、亜臨界水前処理を適用したメタン発酵の高速化・効率化が確認できています。一方で、亜臨界水前処理を行う際に反応装置壁面に食品残渣の炭化が起こることが実用化する上での課題となっていました。この課題を解決し、炭化を抑制する撈拌と撈面機能を持った新たな亜臨界水装置の開発に成功しました。



下水汚泥の亜臨界水処理メタン発酵システムの実用化に向けた技術開発

(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 平成22年度「新エネルギーベンチャー技術革新事業」採択)

下水汚泥のメタン発酵処理施設において、分解できなかった残渣(消化残渣)の発生量を低減する新しいプロセスの開発と新エネルギーの利用促進のため、亜臨界水前処理とメタン発酵設備を組み合わせた、小規模かつ高効率の下水汚泥処理システムについて技術開発を行っています。



亜臨界水処理メタン発酵システムの阻害物質除去技術の開発

(平成23年度「堺市ものづくり新事業チャレンジ支援補助事業」採択)

従来のメタン発酵では、有機物の分解過程で発生する物質(阻害物質)が知られています。そこで、亜臨界水処理メタン発酵システムを効率化させメタンガスの回収率を向上させるため、阻害物質除去技術の開発を行っています。



その他トピックス

優良廃棄物処理業者認定

リマテックは、大阪府・大分県において第1号となる『優良産廃処理業者認定』を取得しました。本制度は、産業廃棄物処理業の実施に関し優れた能力及び実績を有する者の基準(優良基準)に適合する産業廃棄物処理業者を認定する制度です。認定を受けた産業廃棄物処理業者(優良認定業者)については、通常5年の産業廃棄物処理業の許可の有効期間を7年とする等の特例が付与されます。

リマテックは今後も積極的にお客様に安心・安全なサービスを提供をしていきます。

優良性評価制度 (2006年4月)

- 1 遵法性と実績(行政処分を受けていない、5年以上の実績)
- 2 情報公開性(情報をインターネットで公開)
- 3 環境保全への取り組み(ISO14001取得等)

優良処理業者認定制度 (2011年4月より運用開始)

- 1 遵法性と実績(行政処分を受けていない、5年以上の実績)
- 2 情報公開性(情報をインターネットで公開)
- 3 環境保全への取り組み(ISO14001取得等)
- 4 電子マニフェストシステム(JWNET)の加入
- 5 財務体系の健全性

中和事業開始

従来の中和処理では、中和処理後の廃液は河川や周辺海域等へ放流され、汚泥は埋め立て処理されてきました。当社では、中和処理後の廃液をセメント工場の冷却水として再利用し、汚泥は当社のRF事業での固形分として活用することが出来るため、資源循環の推進や環境保全に役立っています。

中和処理プロセス



「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」の構成施設として参加

2011年2月、経済産業省(資源エネルギー庁)の「次世代エネルギーパーク」に「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」が認定されました。なかでも堺エリアは、世界有数の次世代エネルギー供給・開発拠点を形成しており、当社の堺SC工場では亜臨界水処理技術を用いたエネルギー製造施設として参加しております。



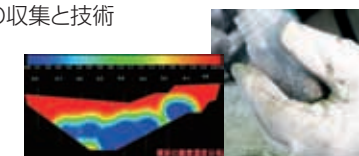
学会・技術発表

当社の技術開発部門では、学会、講演会、セミナーに参加意思、技術情報の収集と技術開発成果の公表を積極的に行っています。

・第21回廃棄物資源循環学会研究発表会 於金沢(2010年11月4日～6日)

「金属ナトリウムカリウム合金の適正処理と再資源化」

・2010 JAPAN ANSYS Conference 於東京(2010年11月19日) 「注入水蒸気的地中拡散解析」



知財(特許)管理

当社は、技術開発を行うだけでなく、積極的に知財管理にも取り組んでいます。これまで22件(共同出願含む)の特許出願を行っており、6件が特許として登録されました。

～大阪府 平成23年度「知的財産顕彰事業」グランプリ受賞～

大阪府では、府内外の大学等研究機関の特許権を活用して事業化している府内中小企業を表彰し、PRによるブランド化支援が図られています。当社は大学等研究機関との連携を積極的に行い、知財の有効性を広く周知しているとして第一回目のグランプリ受賞企業として選定されました。

環境マネジメントシステム

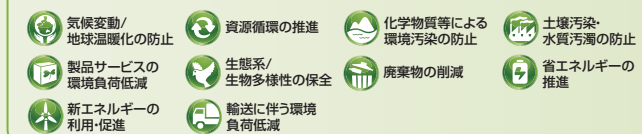
ENVIRONMENTAL MANAGEMENT SYSTEM

環境理念

リマテック株式会社は、地球環境の保全が人類の持続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら産業廃棄物リサイクル事業活動を実践し、循環型社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。



環境分野における社会的課題



リマテックの節電活動

電力使用量の見える化

大阪、九州工場ともにエネルギーコスト削減のため、デマンド監視装置を設置しました。これにより電力デマンド値のピークを抑えると同時に社員の電力使用量に対する意識のレベルアップを目指しています。実際に運転方法の変更や攪拌機タイマーの設置等の改善にもつながっています。

省エネ照明の導入(2010年10月)

大阪工場では、試験的にCCFL蛍光灯を取り入れました。その結果、照明電力使用量が半減し、オフィスフロア及び制御室・分析室へも導入。また、九州工場でもオフィスの一部の蛍光灯をCCFL蛍光灯に交換しました。

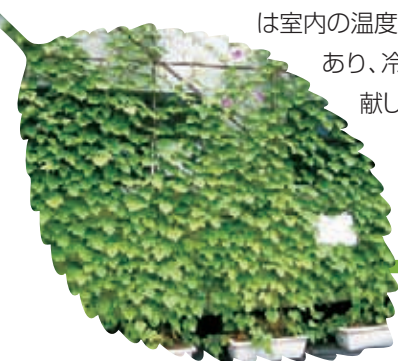
センサーライトへ変更



九州工場では、場内の掲示板等を照らすライトに手動スイッチ式のものを使用していましたが、センサーライトに取り替えました。センサーが人・車両を感知して自動点灯・自動消灯するので、無駄な点灯時間の減少により節電することができます。

みどりのカーテン

今年も九州工場では事務棟の窓の外に「みどりのカーテン」として植物を育てました。カーテンによる日よけは室内の温度上昇を抑える効果があり、冷房機器の節電に貢献しています。



外部専門家による省エネ診断受診(九州工場)



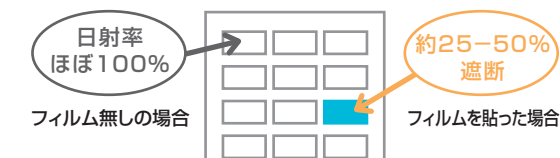
攪拌時間の変更による節電(2010年10月)

九州工場の節電への取り組みとして、製品タンクの攪拌時間を見直しました。従来の24時間体制を5時～17時に変更し、あわせてタイマーを導入・設置しました。これにより1,440kwh/日の電力消費量の削減が見込まれます。



エコフィルムで省エネ

大阪工場は、地球温暖化防止対策や省エネ対策としてエコフィルム(レフテル)を事務所窓の室内側に貼りました。レフテルは透明でありながら太陽日射熱の約25%～50%を遮断し、遠赤外線反射率が高い為、夏は涼しく、冬は適度の暖かさを保ちながら熱の流出を防ぎ、年間の省エネ効果を得られました。



地域パトロールの実施

臭気確認のための地域パトロールを継続しています。湿気の多い夏の時期には特にパトロールを強化しました。各部署の管理責任者を選任し、地区で出会った方には必ず声をかけ、最近の状況をヒヤリングしながらコミュニケーションを図っています。



ハイブリッドフォークリフトの導入(2011年7月)

大阪工場では、化石燃料を全く使用しないと言う環境面と、完全密閉式バッテリーやACモーターの採用により内部で火花が飛ばないなどの安全面からの検討と同時に各工場の環境・安全衛生担当者の意見も取り入れ導入を決定しました。CO₂の排出量ではガソリン式に比べ約74%削減、一般的な電動式と比べても約20%の削減が期待できます。環境面以外の効果として、バッテリーの補水が不要となりメンテナンスが容易になりました。また、小型特殊免許・フォークリフト運転技能免許でも操作ができるため運転者の制限が減り、効率的な運用が可能となりました。



2010年度環境管理活動

項目	目的・目標	社会的課題との適合性	具体的な実施事項	目的・目標に対する結果	評価	2011年度の課題と目標
大阪工場	ボランティア活動の推進		地域ボランティア活動(港湾美化清掃等)への参加	ごみゼロ作戦参加 7名参加 港湾美化活動 8名参加 大阪工場周辺道路の清掃(3回)	○	積極的な参加の呼び掛け
	RF出荷量の拡大による省資源化の推進(RF出荷量52,620トン以上/年)		営業、運輸グループの産廃物の収集、製造グループの安定稼働	RF出荷量 60,998トン/年	◎	新しい輸送手段による温室効果ガス削減
	漏洩事故の撲滅 0件		手順書の見直し、ルール遵守、移送方法の見直し、反応テストの見直し等	工場内での漏洩事故 8件 客先での漏洩事故 0件	×	ルールの再度見直しと教育方法の見直し ルールの周知徹底と周知度確認
	RF出荷量拡大に向けた新規顧客の獲得(52件以上/年)		新規顧客の調査と技術提案	新規顧客への調査・提案不足(20件獲得)	×	新規顧客の再調査と技術提案 顧客先へのフォローアップ
	電力使用量の削減(2004年度比25%減)		省エネ照明機器をテスト的に導入、攪拌機の運転方法見直し	原単位の削減率 34.5%削減	◎	省エネ照明等の導入 デマンドの活用による電力削減
九州工場	地域での臭気クレーム 0件		地域/パトロール時のコミュニケーションを強化	地域での臭気クレーム 0件	◎	地域での臭気クレーム 0件
	客先での漏洩事故 0件		指差呼称、1人KYの徹底	工場内での漏洩事故 2件	×	客先・場内での漏洩事故 0件
	RFの安定供給で、省資源化の推進(RF出荷量45,000トン/年の達成)		営業、運輸グループの産廃物の収集、製造グループの安定稼働	RF出荷量 47,812トン/年	○	RFの安定供給による省資源化推進 (RF出荷量 48,000トン/年の達成)
	電力使用量削減によるCO ₂ 排出削減の推進(電気使用量3%削減(RF1トンあたりの原単位))		攪拌タイマーの設置 ミドリカーテンの育成 ポンプ排出をヘッド圧排出に変更	(2009年度)13.5kwh/t →(2010年度)11.7kwh/t (13.3%削減)	◎	CO ₂ 排出削減の推進 デマンド監視装置の活用による電力削減
堺SC工場	ボランティア活動の推進		堺市植樹イベント等の地域ボランティア活動への参加	ごみゼロ作戦参加 地域の自治会の清掃活動等に参加	○	積極的な参加の呼び掛け
	工場美化の推進(2回/年)		緑地の刈り込み作業	緑地の刈り込み作業の実施	○	刈り込み範囲を明確化 回数増加で美化の推進
	廃棄物再資源化処理の推進		廃硝酸を再資源化による温室効果ガス削減	再生硝酸事業の開始(323トン/年)	○	再生硝酸製造・出荷量を拡大 (再生硝酸出荷量 959トン/年の達成)

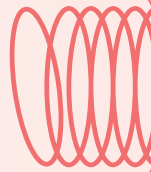
労働安全衛生マネジメントシステム

OCCUPATIONAL SAFETY AND HEALTH MANAGEMENT SYSTEM



安全衛生理念

リマテック株式会社は産業廃棄物リサイクル事業活動を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり、社会的責任であることを自覚する。よって、人間尊重の理念のもと「安全第一」「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。



産業安全運動100年記念事業に参加

中央労働災害防止協会から安全運動100年記念事業“わが社の100年記念の活動”への参加依頼があり、作文38件、小論文9件に加え、例年行っている安全宣言・安全の誓いや全社安全会議開催なども取組事項として提出しました。全社安全会議では「安全第一の職場とは」をテーマに、何故ルールが守られないのか、その真の原因や対策についてのグループディスカッションが行われ、例年以上に活発な討議となりました。

大分労働局局長、九州工場を視察 (2010年12月)

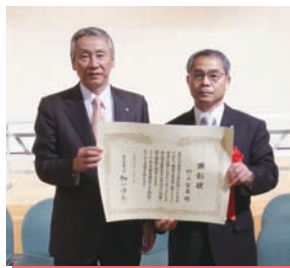
大分労働局局長、佐伯労働基準監督署署長等が大分県内優良事業所視察のために来社されました。1997年7月の重大災害を教訓とした今日までの安全衛生規程基準、作業標準書の整備を初め、リスクアセスメントの仕組みと実践、工場長パトロール、安全衛生のための知識・意識向上教育など、リマテックの安全衛生活動に対し、お褒めの言葉をいただきました。今後もより安全・安心な職場作りのために積極的に取り組んでいきます。

「安全優良職長厚生労働大臣顕彰」を受賞 (2011年1月)

九州工場の村上副工場長が「安全優良職長厚生労働大臣顕彰」を受賞しました。この賞は、安全指導に功績のあった職長に贈られるものであり、九州工場では初めての栄誉となります。

※厚生労働省報道発表資料(2010年12月)より

厚生労働省は優れた技能と経験を持ち、担当する現場や部署で作業の安全を確保して優良な成績を挙げた職長134名を平成22年度の「安全優良職長」として顕彰することを決定。この制度は、労働災害による被災者数が年間約54万人(平成20年度)に上る中、高い安全意識を持って適切な安全指導を実践してきた優秀な職長を顕彰することにより、優良職長を中心とした事業場や地域における安全活動の活性化を図ることを目的としている。



設備改善—ミスト噴霧設備の設置

大阪工場の汚泥槽に火災事故の予防対策として、噴霧設備を設置しました。このミストを噴霧することにより舞い上がる粉体を抑えることが可能となり、粉体の静電気による粉じん爆発の防止となりました。



緊急事態対応訓練の実施

大阪・九州工場では、消防避難訓練など緊急事態対応訓練を実施しています。今年は特に大震災の教訓を活かして、地震想定訓練の実施とともに安否確認方法の再構築など全面的な見直しを行いました。



マイエリア・マイマシン活動の取組み

各工場では場内の5S促進のため、各エリア毎に担当者を決める「マイエリア・マイマシン活動」を実施しています。責任を分担することにより、各人の意識や工夫意欲が増し、以前より場内がきれいになりました。本活動を継続し、意識の向上に努めていきます。

エリア別リスクアセスメント

九州工場では、毎月工場内エリア毎に予想される危険要因を排除する活動を実施しています。この活動を通し、一人ひとりが危険要因を真剣に考えるようになりました。安全意識の向上により、前年に引き続き2年連続で完全無災害を達成することができました。



安全運転の取組み

大阪工場では、大阪府警主催の無事故・無違反チャレンジコンテストの自家用自動車部門において金賞を受賞しました。また、九州工場は臼杵警察署より「安全運転モデル職場」の認定を受けました。今後も全社で安全運転を継続します。

2010年度安全衛生活動

工場	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	2011年度の課題と目標
大阪工場	安全	休業災害 0件 類似作業による労働災害 0件	・手順書見直し及びルールの周知徹底 ・管理者パトロールの実施	休業災害 1件 不休業災害 2件 (類似1件)	×	マイエリア・マイマシン活動の推進 手順書の作成・見直し、教育の実施 リスクアセスメントの実施による改善活動
	衛生	衛生個人目標達成率 85%以上	・健康に関する個人目標の設定 ・メンタルヘルス活動の推進	衛生個人目標達成率 91% 有所見率 52%	○	産業医訪問による有所見者への健康指導
	防災	設備トラブルによる事故 0件	定期的な点検・保全により設備トラブルを防ぐ	汚泥槽で小規模な出火事故 1件	×	汚泥槽に噴霧設備を設置(23ページに掲載)
	交通	バック時の接触事故 0件 人身事故 0件	交通KY訓練の実施	バック時接触事故(構内) 1件 人身事故 0件	×	・交通ハザードマップの作成 ・運転適正診断の実施 ・表示等の掲示
九州工場	安全	災害「0件」	・エリア別リスクアセスメントの実施 ・非定常作業時の安全確保 ・5Sの徹底 ・スキル向上教育の実施	完全無災害達成 (2年連続)	◎	災害ゼロ職場の「あるべき姿」として以下の項目に取り組む ①エリア別リスクアセスメント ②作業標準書 ③5S
	衛生	衛生個人目標の達成率「85%以上」	・快適な職場作りの推進 ・健康に関する個人目標の設定 ・メンタルヘルス活動の推進	衛生個人目標達成度 88.2% 有所見者率 60.4%⇒47.2%	○	メンタルヘルス対策に関する基準を制定
	防災	管理者不在時の緊急対応訓練実施	土曜日の管理者不在時を想定	管理者不在時の訓練実施	○	地震及び管理者不在時の標準化
	交通	交通事故0件 交通違反0件	乗車前車両点検の実施 交通ルール遵守の徹底指導	物損事故 2件 人身事故 0件 交通違反 0件	△	「だろー運転」防止の徹底
堺SC工場	安全	休業災害0件 不休業災害0件	・5S活動の推進 ・KY活動 ・リスクアセスメント継続実施 ・改善提案活動の推進	休業災害 0件達成 不休業災害 2件(類似)	×	マイエリア・マイマシン活動の推進 化学物質による知識と危険性を教育
	衛生	定期健康診断での有所見者率低下 ▲5%以上 (2009年度 75%)	健康管理個人目標の設定	個人衛生目標達成率 86% 所見者 40%	○	産業医訪問による有所見者への健康指導
	防災	緊急対応訓練実施	災害・事故を想定した訓練を実施	訓練実施要領の見直し・周知徹底したが、訓練未実施	△	大規模地震・津波を想定した避難・安否確認訓練を実施
	交通	交通事故・交通違反 0件	交通KY訓練の実施	人身、物損事故 0件 交通違反 1件	△	交通KY訓練を定期的に実施 運転適正診断の実施

ステークホルダーとのコミュニケーション

COMMUNICATION WITH STAKEHOLDERS



地域交流



ボランティア活動



第13回地域交流会開催



2011年9月3日、台風12号のため開催を危ぶまれたが、風雨の影響もなく、地域住民127名を含めた175名で無事開催することができました。中野日杵市長始め地域の方々と有意義な懇親ができ、子ども達や年輩の方々もゲームに興じるなど楽しませていました。



第12回ふれあいグラウンドゴルフ大会を開催



2011年4月、グラウンドゴルフ大会を開催し282名ものみなさまに参加していただきました。社長や社員も参加する毎年の行事に、参加者のみなさまとは会話はすみ、名プレイや珍プレイに明るい笑い声の響く楽しい1日となりました。



「ふれあい共生の森」の草刈り

2011年8月「ふれあい共生の森」の草刈を行いました。大きく成長した苗木の周りに雑草が多く繁っていましたが、ビーパー刈り機や鎌で草刈をし、すっきりとしました。これで又、苗木も成長しCO₂削減に寄与することでしょう。



復興アクション宣言

「復興アクション」とは、日本全国で被災地を応援するキャンペーンで、例えば「東北にお花見に行くこと」や「東北の野菜を食べること」などの様々な行動を被災地の応援につなげていくことを目的としています。リマテックでも「私の復興アクション宣言」を行いました。

次の3つの行動を推進します。

- 被災地のために、風評にまどわされないようにしよう。買いだめも控えよう。
- 過度な自粛はやめよう。通常の生活に戻ることが日本の元気につながる。
- 節電を心がけよう。家電を省エネ型に変えるなど、電力消費を抑えよう。



収集ボランティア活動

リマテックでは、資源の再利用と社会貢献を兼ねて次の収集を継続して行っています。どれもそのままでは「ゴミ」となってしまいますが、継続して収集することで資源循環につながればと考えています。収集ボランティアは身近なボランティアとして社員全員で参加しています。

エコキャップからワクチンへ

NPO法人エコキャップ推進協議会の意向に賛同しエコキャップを収集しています。2010年度は大阪・堺SC工場で約8Kgを、九州工場で約103Kgを回収しました。ワクチンにして約27人分を世界の子どもたちに届けることができました。



アルミ缶から車いすへ

九州工場では2010年度は11.5Kgを、今までに292Kgを回収しています。車いす1台には801.4Kgのアルミ缶が必要ですので、現在のところ3分の1台と言ったところですが、継続して収集していきます。

割り箸から再生紙へ

九州工場の社員の一人ひとりが洗い、乾燥させた使用済みの割り箸は製紙会社で上質紙として生まれ変わります。これまでの105.8Kgの割り箸をティッシュペーパーに換算すると159箱になります。

古切手を福祉活動へ

使用済みの切手を地域の社会福祉協議会等に持ち込んでおり、収益は福祉活動に使用されています。



都松小学校とともに…

地域の学校でした都松小学校と一緒にやって来た、クリーンプロジェクト、花壇の花植え、登山も閉校により最後の年となりました。

九州クリーンプロジェクト

2011年1月、都松小学校の先生と生徒、地区の老人会の方々、当社の従業員の総勢35名が参加し国道沿い清掃活動を行いました。九州工場では、この他に毎月、国道清掃を実施しており、2010年4月～2011年3月までのごみ収集は3,150ℓにも及びました。



武山登山

2011年1月、都松小学校の先生・生徒さん、野津小学校の生徒さん、地区の父兄の方々、老人会の方々、健全育成会の方々、社員13名の総勢105名で都松地区のシンボルである武山へ登りました。山頂までは1時間ほどでやっとの思いでした。山頂では美しい景観のもと絶叫大会を行い、新年の目標を大きな声で叫びました。下山後には豚汁のおもてなしがあり、充実した地域交流ができました。



国道花壇の管理

2010年11月、都松小学校の生徒と先生、そして地区の老人会の方々など50名が参加し、チューリップの球根を植えました。2011年6月、夏季の花を生原地区の老人会の方々と30名で植えました。



都松小学校より感謝状

都松小学校・幼稚園の閉校・閉園にあたり、2011年3月都松小学校・幼稚園閉校事業実行委員会より、当社が都松小学校・幼稚園の先生・生徒・地区のみなさまと一緒に長年活動してきた学校行事や国道花壇の花植えなどの体験活動、そして交通安全推進活動として写真ニュース提供等に対して感謝状をいただきました。



市民フェスティバルごみゼロ作戦に参加

2011年5月、毎年行われている岸和田市民フェスティバルで発生するごみの分別活動(「ごみゼロ作戦」)に参加してきました。



阪南1区港湾美化活動に参加



2011年6月、岸和田市および岸和田港振興協会主催の港湾美化啓発活動へ、当社社員及び家族の総勢17名が清掃ボランティアとして参加しました。

当日の外気温は30℃を超えるほどでしたが、全員が一丸となり清掃活動を行いました。



大阪クリーンプロジェクト

身近な環境を見直す地域清掃活動として大阪工場では工場周辺道路の一角清掃を全社員で行いました。年間行事として行っておりますが、今年も年2回(7月・1月)に実施致しました。



ステークホルダーとのコミュニケーション

COMMUNICATION WITH STAKEHOLDERS

お客様の声

花王株式会社和歌山工場
地区サービスセンター
米元孝博氏



花王は、循環型社会の形成に向けて、リデュース、リユース、リサイクルの優先順位のもと、プロジェクトを推進して廃棄物の発生量削減や最終埋立処分量をゼロに近づけるように全社で目標を設定し努力しています。なかでも最終埋立処分量については、最終処分量/廃棄物等発生量×100で計算する最終処分率を下げることを目標にしています。

生産事業場では、毎年、分別を強化したり、処理のお願い先を見直したり、リサイクルを推進して目標値をクリアするたびに更にハードルの高い目標値を設定しています。現在は最終処分率を0.1%以下にすることをゼロエミッションと定義して最終処分量の低減を推進しています。そのなかで、花王の工場の中で最大規模を誇る和歌山工場は国内生産量の半分近くを占めていることと、家庭用、工業用・業務用の多種多様な製品を生産していることで、和歌山工場の目標達成が全体の目標達成に大きく影響するため担当者全員が、それぞれ個別の目標を設定し日々努力を続けています。同時に廃棄物処理に関しては、年々規制が厳しくなり、排出者への要求も高度になってきているため、処理については、委託先と処理

方法には過度と思われるほど細心の注意を払っています。

リマテック株式会社様は、当工場が安心して処理をお願いできる委託先ということで長く御付き合いさせていただいています。地理的に近いということもあり、頻繁に処理状況を確認させていただきますが、我々の参考になることも多く楽しみにしています。技術開発力、分析力、リスク管理は当然、高いレベルにあります。特筆すべきは、その機動力です。当工場は突発的に処理をしなければならない廃棄物が発生することもあるため、いつも頼りにしています。これからも機動力を発揮し地球環境を守る同志としていっしょに仕事をさせていただきたいと考えています。



ローム株式会社
環境管理部 環境管理室
技術主査

宅間裕晃氏

リマテック株式会社様においては、近畿環境興産株式会社の社名時から、ロームの廃棄物である汚泥の燃料化処理をお願いしております。ロームの産業廃棄物の再生資源化(ゼロエミッション)にご協力頂き、おかげさまで昨年(平成22年)循環型社会形成の推進において環境大臣賞を受賞いたしました。

リマテック株式会社様においては、汚泥を安定して燃料へリサイクルして頂きました。排出事業者として、実際の現場にて燃料化プロセスを毎年確認させていただいております。この度、産業廃棄物処理業者として、いち早く「優良認定処理業者」の指定を受けており、安心して委託出来る業者様と考えております。

また、CSRレポートも毎年拝見いたしますが、地域社会、福祉など多方面に渡る活動が印象に残ります。今後も、ロームとともに循環型社会形成にご尽力いただける事を期待しております。

地域の声

白杵市人権擁護委員
白杵市野津町都原
原口房枝氏



私とリマテック九州工場さんとの関わりは都松に工場が出来た時からです。

私事で時々伺っていますが国道502号線を会社に向かって上がって行くと両側には四季折々きれいな花が迎えてくれます。特に春の桜並木は圧巻で、他所に花見にいかなくてもここで十分だと思える程です。会社の敷地内もきれいでさすが環境分野に取り組んでおられる会社だと思います。

今、私は法務大臣から委嘱され人権擁護委員として活動し子供の人権や男女共同参画の問題に取り組んでいます。

この度、男女共同参画社会の推進啓発のため市役所担当職員と共に企業訪問させていただき、採用時の性別による差別のないこと、男女公平な昇進、昇格のシステム、女性の職場環境、育児休暇制度の整備、運用、企業の社会的責任への関心及び地域への貢献等についてお話を伺いました。

地元の私が知っている老人会や小学生と国道沿いの花いっぱい運動、カン拾い等の清掃活動、会社内での焼肉大会、グランドゴルフ大会等の活動は地元はもちろん市にとっても活性化になっており地域への貢献度は大きいものがあります。又育児休暇や、その後の職場復帰にも理解があり働きやすい職場だと感じました。今後も男女共同参画社会の実現に向けてご理解をお願いします。突然の訪問に快く対応して下さいありがとうございました。終わりにになりましたが貴社の益々のご発展をお祈りいたします。

社外アドバイザーの声

翔労働衛生コンサルタント事務所 所長
大分産業保健推進センター 基幹相談員
田吹好美氏



リマテックさんとの安全衛生活動への関わりの中で、私の所感を述べさせていただきます。

ともすると表面的で形式的になりがちな安全衛生活動ですが、いち早くマネジメントシステムを導入し、「本質的」な活動を「本気」で取り組んでおられます。

7月に全社安全衛生会議が大分で開催され、私も「メンタルヘルスケアの重要性」についてお話をさせていただきました。出席者が多い事、みなさんが熱心に会議に臨まれていることに感心いたしました。経営陣と従業員が情報を共有化し、互いに立場と意見を尊重し合う。まさに労使一体の安全衛生活動が展開されている様子が窺われました。また、広く「聞

く耳を持つ」経営陣の姿勢にも感心させられました。

私はリマテックさんとの対話の中で「いい会社」だな、「楽しみな会社」だなと感じることが多々あります。いい会社とは、財務的業績がいいことは勿論でしょうが、社員が「働き甲斐」を持ち、仕事を通して「社会に貢献できる」ことではないかと、私は考えます。

最近、職場のメンタルヘルスが社会的問題となっており、コミュニケーション・職場の支援不足が要因の一つとして挙げられています。

人は誰でも歩き続けると「こける」こともあるでしょう。起き上がるのは自分自身の力なのですが、その時、手を差し伸べ、相手の立場になって考え、支えてくれる、リマテックさんはそんな温かみを感じる会社です。

これからも、新しい技術分野に挑戦し「夢を広げ」、「人を大切にする」リマテックさんであり続けることを祈念いたします。

ステークホルダーとのコミュニケーション

COMMUNICATION WITH STAKEHOLDERS

研究員の声 (インターンシップ期間:2010年8月~11月)

大阪府立大学 エコロジー研究所
21世紀科学研究機構 ポストドクター
Shamsul Izhar 氏
(シャムスル イズハル)



水を使った廃棄物再資源化という地球に優しいリサイクルシステムを応用することは非常に魅力的です。私は去年の8月から11月までリマテック株式会で3ヶ月間研究員として大阪府立大学からインターンシップをさせていただき、初めて産業廃棄物が水で処理したり、燃料に転換したりすることができると分かりました。この3ヶ月のインターンシップを受けたときに様々な亜臨界水反応の実験を行って、高温高压の水(亜臨界水)の常温の水と異なる様々な能力を持っていることを実際に実験結果から体験しました。

リマテック株式会社は堺市のエコタウンという海の隣りにあります。私はインターンシップ期間中、毎日気持ちのいい海の風を感じて、途中にあるヨーロッパの風車を眺めながら会社へ通勤しました。会社では朝礼で始まって、その日の予定の連絡したり、職場の安全衛生を進めたりして非常に社内コミュニケーションの良い会社だと感じています。さらに週に1回は全掃除(実験室、事務室、階段、玄関な

ど)を実施して、いつもきれいな環境で気持ちよく実験ができました。月に一回は計画に沿った教育を実施し、その結果もっと考えを広げることができ、社員が工夫してたくさんのIdeaを導くチャンスを作っていると思います。

インターンシップ期間、私は技術本部に所属されており、たくさんの研究員、品質管理担当員とエンジニアとかかわりました。みんなはいつも一所懸命仕事をして、そして何を聞かれても親切に答えてくれて、毎日良い気持ちで作業しました。さらに研究員のみなさんがどんな仕事を任されても、一つずつきちんと完成させて、私にとって非常に優秀な方々に囲まれていて、実験法だけでなく、研究員としていろいろなことを学びました。実験室にはオートクレーブ試験機、GC、IC、蛍光X線分析装置など実験設備や分析機器がたくさんの便利な最先端のものが揃っています。私は今まで使ったことがない装置もたくさんあり、それにみんなから教わりましたからたくさんの結果を取得できて、そのおかげでインターンシッププログラムに良い報告書を作成できました。このような素晴らしい環境の中でインターンシップを受けることができて、本当に誇りに思っています。

研修生の声 (研修期間:2011年9月12日~22日)

経済産業省 資源エネルギー庁
新エネルギー対策課
水谷 祐樹 氏



研修にお邪魔させていただき前、自分の研修先を見て「産業廃棄物処理業」という業種に身構えていたことを今でもよく記憶している。そうした業界の方とお付き合いをしたことはなかったし、どちらかと言えば、「廃棄物」という言葉にあまり明るいイメージを持っていなかった。しかし、自分が「産業廃棄物処理業」に抱いていたイメージは、今回の研修で良い意味で

裏切られることとなった。

研修では、職員の皆様からどのような事業をなさっているのかお話を聞いたり、実際に工場で作業をさせていただいた。

事業内容を聞けば、産業廃棄物処理といっても、中間処理も最終処理もあれば、扱う廃棄物の種類も多様であり、本当に様々な分野が存在していることがわかったし、今にしてみれば、リマテックの事業は廃棄物「処理」というよりは、廃棄物「加工」或いは「資源再生」とでも言った方がしっくりくる。

また、実際に作業をさせていただいた感想としては、ドラム缶を開けたり倒したり、プレスをしたりする

見学者の声

公益財団法人地球環境
センター(GEC)
事業部 研修課主任
田中 真一 氏



平成23年7月7日、JICA集団研修「大都市地域環境政策・環境マネジメントシステム」コース(インド、インドネシア、コンボ、メキシコ 全8名)の視察先として、大阪府堺市のエコタウン内にある、リマテック株式会社SC工場を訪問した。

本研修は、大都市地域特有の環境問題を改善するため、国または自治体の担当官が環境政策を制定・実行するための能力を向上することを目的としたコースである。今回の訪問では、大阪府のエコタウン政策の概要を理解するとともに、実際に大阪府エコタウン内で操業されている企業の先進的な取り組みを視察することを目的とした。

冒頭、取締役技術本部長 西原氏よりご挨拶をいただき、続いて研究開発部 張氏より、廃棄物を石炭代替燃料化するRF技術、及び亜臨界水反応を用い廃棄物を再資源化するSC技術についてご紹介いただいた。

研修員からは、SC技術のコストバランスに関する質問や、国外から廃棄物を受け入れて処理することが

可能か、などの質問があった。コストについては常にProfit/Lossバランスを管理して操業していること、また国外からの廃棄物の処理については、法律による規制から対応できないこと、ただし、海外からの問い合わせは多数あり、今後、現地とのジョイント事業を検討していることなどをご説明いただいた。

視察後、研修員からは以下のような感想をもらっている。
・エコタウンの土地はゴミや残土を利用して埋め立て造った素晴らしいプロジェクト
・視察先企業の技術は、どれも今まで見たことのない新しいものばかりですばらしい
・大阪府におけるエコタウン開発の重要性、及び経済への役割と協力体制の重要性が理解できた
・エコタウンがどのように造成されたか、また廃棄物関連プラントの稼働状況を知ることができた
・廃棄物関係のビジネスがどのように成立するか理解する良い機会であった

以上のように研修員からの評価も高く、今回の研修視察は非常に効果の高い有意義なものとなった。

最後に、このような機会を与えて下さったリマテック株式会社、及び最新の技術についてわかりやすく解説をいただいた現地のスタッフの方々に感謝したい。

作業は楽ではないということである。肌に廃液がかかることは常だし、かなりの体力を要する作業であった。日本の産業はこうした人たちに支えられていて、彼ら無しには成り立たないという事実を、しっかりと胸に刻みたい。

普段、経済産業省でたとえば産業振興について議論する際、我々が着目するのは「如何に生産性を上げるか」や、「如何に付加価値をつけるか」等の産業の「つくる」面、或いはいわゆる「動脈サイド」であるが、ものをつくった後、資源は必ず「静脈サイド」に向かうわけである。産業振興を図る際は、動脈サイドの強化のみならず、静脈サイドの強化もあわせて図らなければ、その

産業は全体として持続可能なものとはならないし、社会的な問題を生む恐れすらあるだろう。自分は今までこうした視点を欠き、極めて近視眼的に産業を見ていた。今後は、より高い視点からものを捉え、物事の構造をしっかりと俯瞰できるよう意識していきたい。

約2週間、東北の復興の業務等が立て込むなか、自分を受け入れ、面倒を見ていただいたリマテックの皆様には心から感謝している。今回の研修で体験させていただいた全てを、今後の政策立案につなげ、国益に資するようにしていきたいと思う次第である。本当にありがとうございました。

ステークホルダーとのコミュニケーション

COMMUNICATION WITH STAKEHOLDERS

働きやすいリマテックを目指して

リマテックは、社員一人ひとりが常に意欲的にイノベーションを創出することができる環境づくりを目指しています。また、マトリックス型組織内のコミュニケーションの推進を図るため、様々な会議や研修、社員旅行や、自主性を推進する改善提案募集などにも取り組んでいます。

さらに、有給休暇・半日休暇・育児休暇などを取得しやすい環境を整え、子育てしながら働く女性を支援しています。リマテックでは、今後も社員のモチベーションの向上を促進し、常に「働きやすい職場」を目指し、社員一丸となって理念に基づいた社会貢献ができる企業を目指します。

社員の声

近年、社会で活躍する女性・出産し社会復帰をする女性が増えています。やはりそれは家族の理解と支え・協力は勿論の事、女性が発言する場を与えて耳を傾けてくれる、育児中の女性への配慮された規則、環境を与えてくれる企業＝リマテックがあつての事だと思えます。

リマテックには女性社員の中で、出産し育児をしながら勤めている方が、私も含めて半分以上を占めています。私の子どもは比較的手のかからない年齢に達していますが、まだまだ手のかかる乳幼児を抱えている方もいます。

それでも家庭と仕事を両立しながら、皆それぞれ自

分の業務に責任を持って取り組んでいます。

今年は、なでしこジャパンが大活躍し、チーム員の活躍や連携プレイに感動し沈みがちだった日本が沸きました。

私たち女性社員の日々の業務の中でも、連携している事が多々ありますが、協力しあってそれぞれ互いの業務に支障をきたす事無く、連携プレイが行えていると私は思います。

この先も定年まで、リマテック社員として、私なりに精一杯努めて貢献していきたいです。

そして次世代の女性社員が、更にもっと生き生きと輝けるような職場「リマテック」へと願います。

営業本部 大阪工場 奥村 悦子

リマテックに入社して一年経ちましたが、入社当時は仕事と家庭を両立させている社員の方々を見て、昔とは会社の女性社員に対する待遇は変わったなという印象を強く持ちました。私は結婚を機に以前勤めていた会社を退職したのですが、当時はそれが当たり前のような雰囲気がありました。ましてや出産後も仕事を続ける女性社員はごくまれで、当然自分自身にもその選択肢はありませんでした。

しかし、その後は結婚・出産後も仕事を続ける女性が増え、会社側も女性が働きやすい環境を徐々に整

えてきました。

リマテックもそんな会社だからこそ、女性社員が安心して働き続ける事が出来ているのだと思います。私自身も小さい子を育てている身なので、急な発病等で会社を休まなければならない時もあり、そんな時でも柔軟に対応していただけるので、とても有難く思っています。

時代の流れもあるのかもしれませんが、リマテックのような会社に出会ったら、仕事を続ける事が出来ていたのかな、とふと思うことがあります。

生産本部 大阪工場 松下 純子

リマテックに入社して8年目になりました。研究開発の仕事を通じて感じたこと、得られたことが多くありました。様々な廃棄物の処理及び再資源化の検討を行うなど常に新しいことに挑戦しており、仕事を通じて常に自分の能力を磨くことができ、新しい知識を取り入れる

ことができました。いろいろなチャレンジができる機会を与えてくれる会社であると実感しています。これから一つ一つの行動に責任を持ち、会社の発展を社会に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

技術本部 張 元月

人材育成

全社安全衛生会議に併せて、数年前から各事業部で全社会議を行っています。会議では工場間での事業発表や議論等を行うとともに、情報の共有化、ノウハウの共有化等が図られ、技術向上はもちろん、イノベーション創出の場かつ社内交流の場となっています。

また、日々の事業活動の中から出される「改善提案」は時にはお客様への品質・安全対策の提案や技術提案などもあり、社内外の課題解決の意識の向上や自主性の向上につながっています。

全社経営方針説明会

リマテックでは、社員一人一人に理解と事業参画の認識を求め、田中社長が年度方針や新中期経営計画の説明を行っています。今期も社長の説明を受けた社員が、各事業の事業目標や予算計画を策定しました。

▶「全社方針キーワード」

- 2009年度「効率化」
- 2010年度「自分で考える」
- 2011年度「自分が変わる」



JB研修

社内推薦型研修

2010年2月からスタートした次世代ボード(JB)育成研修の一貫として、次期中期経営計画の策定に参画し、2011年度より中期経営計画の実行中心メンバーとして活躍中です。また、JBメンバー12人中半数がOJTとして、東日本大震災の被災地復興サポートに取り組んでいます。

リマテックみらい塾

社内公募型研修

2009年4月にスタートしたリマテックみらい塾は、2011年3月に、最終講義及び終了式を迎えました。2011年6月からは第II期みらい塾がスタートしております。時事情勢に併せたロールプレイ等を取り入れるなど、様々な視野からの環境問題への意識の向上を目指します。

全社研修

リマテックでは2002年以来毎年、全社研修を実施しており2010年度は熊本阿蘇にて、社員約80名が参加しました。3工場の社員全員が唯一合流する研修であり、社員交流の場となっております。

▶2010年度 研修内容

2011-13年度中期経営計画の事業概要説明

▶2010年度社長賞

九州工場製造グループ「RF生産能力の向上」

技術本部 主席研究員 河本 一 誠

私は研修プログラムである「みらい塾」と「JB研修」に参加させていただきました。「みらい塾」では、他部署の方々と率直な意見交換を通じて、私達が持つ技術や知識を社会に役立てる上での様々な考え方を学ぶ事ができました。

現在、「みらい塾」で学んだ事を「JB研修」を通じて実際の業務として取り組んでいるところです。このような意識改革の機会を得られた事は私にとって大きな財産となりました。

本年度全社方針は「自分が変わる」ですが、私も他部署の意見を咀嚼して、地に足のついた事業開発を進められるようになっていきたいと考えています。



第三者意見

NPO法人環境文明21 代表
株式会社環境文明研究所 所長
加藤 三 郎 氏



このCSRレポートに意見するには、どうしても、今年起きた様々な厳しい試練に触れない訳にはいかない。まず想起されるのは、3月11日に、東日本で発生した未曾有の地震、津波、そして原発事故である。これは、未だに日本社会に大きな傷跡を残し、未解決のままの問題も多数抱えているが、また、同時に幾多の雄々しい挑戦があった問題でもある。

このほかに経済面を見ると、夏には東京電力管内だけでなく、ほぼ全国的に電力不安が起り、家庭も企業も節電を求められ、未だ経験したことのない夏を過ごした。それに追い打ちをかけるような超円高、株安、雇用不安である。このように、日本社会全体が激しく揺さぶられた。その中で、リマテックがこの揺れ動く日本社会、特に東日本の被災地にどう貢献したのかに触れている今年のCSRレポートは読み応えがある。

果たせるかな、今回のレポートでは冒頭部分の田中正敏社長の挨拶の中で、「震災発生直後、当社も先発隊を現地に派遣し、不足していた燃料手配などの被災地支援を行いました。と同時に、復旧・復興の第一歩は災害廃棄物の“迅速”な処理であると考え、処理計画の準備を進めるために4月には岩手県盛岡市に東北支社を開設し、現在までに数十名を派遣し廃棄物処理の技術的なサポートにあてております。(中略)それは、当社のミッションであり、社会的責任「CSR」であるとの意識を社員全員が共有しているからだと感じております。(中略)「地域による、地域復興」を念頭に地元企業を中心とした、災害廃棄物処理を推し進めており、瓦礫処理の経験と廃棄物処理に関する豊富なノウハウを活かし、地域復興のお役に立ちたい」旨述べておられる。そして巻頭に「東日本大震災におけるリマテックの取り組み」の特集記事を設け、その中で、3月から始まったリマテック全社挙げての対応状況を写真入りで説明しているのは、極めてタイムリーなレポートとなっている。

企業の経営上の重要な要素は、経営目標を明確に設定し、その目標が達成されたか否かを絶えず検証しながら、次の高みに進んでいくことであるのは言うまでもない。リマテックについて言えば、直近の経営目標は、2008年から10年までの目標を中期経営計画に掲げていたが、今回のレポートには2011年～13年の新しい中期経営計画が掲げられている。それと同時に、2008年～10年の目標がどの程度達成されたかについても、○△×で正直に書いてある。私が見るところ、いずれも厳しい自己評価に基づくアセスメントになっている。

2011年からの中期計画には、「意識改革」「スピードアップ」「組織資産のストック」「人材の成長を促す仕組み作り」という4つのキーワードを掲げているが、ぜひ、この大きな目標が達成されるよう役職員一同のご健闘を期待する。また、会社全体のキーワードとは別に、各部門の目標も本レポートには書かれている。各事業でも、前回の目標がどの程度達成されたかも、自己査定しており、大変興味深い。

さて、中身もすっかり明るいカラーとデザインになり、全体的に大変よく出来ている12冊目のレポートであるが、一つ、注文とアドバイスをしておきたい。

今年のレポートは、編集者の立場からは書いておきたいことが沢山あったためか、字数が増え、限られたスペースの中に収めようとして、活字が小さくなっているところが多い。若い社員中心の編集者は、字を細かく載せることに抵抗がないのではなかろうか。しかし、このレポートを見る人は若者ばかりではない。40代くらいから老眼鏡が必要な人も出てくるし、私のように70歳を過ぎた人間もこれを読む。そうすると、小さな字でびっしり書くことが親切とは言えない。従って、何をレポートに載せ、何を外すかという選択が重要となる。編集者の心構えとしては、書く側の視点を一旦外し、読む側、利用する側が、何を知らがっているのかを意識しながら、編集してほしい。その際、レポートからは外された情報・数字であっても、例えば、金融機関にとっては重要な情報もあるかも知れない。そこで、そういった限られた読者のための情報などは、WEBに載せるなどの工夫が必要であろう。来年のレポートは、読者の視点をより重視して編集することを期待している。



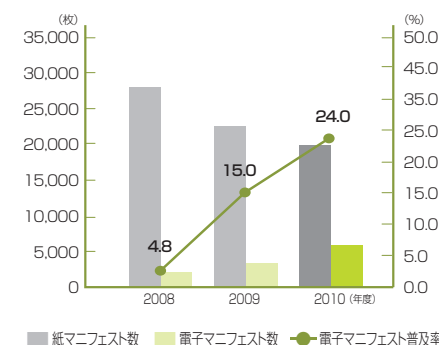
エコ・ファーストの約束～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2008年11月に地球温暖化対策など、自らの環境保全に関する取組みを環境大臣に約束し、エコ・ファースト企業として認定され、3年が経過しました。環境保全に関する業界のトップランナーとして様々な取組みを行っています。

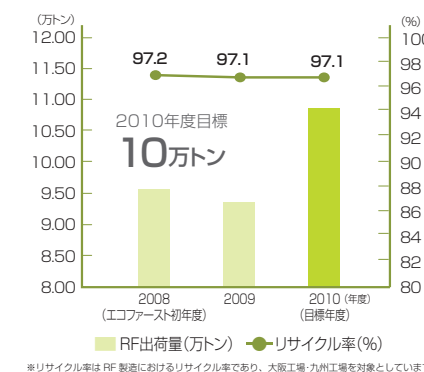


約束内容	項目	目標	2010年度実績
1. リサイクルの適正かつ積極的推進	情報公開		HPIにて随時情報公開 優良処理業者認定情報は20ページ
	電子マニフェスト化		2010年度普及率24.0%
2. 循環型社会形成の推進	RF生産量	2010年度までに10万トン以上生産	達成 108,800t生産
	亜臨海水技術による貢献		事例は16ページ
3. 地球温暖化防止の推進	収集運搬車両の燃料使用量削減(原単位)	2012年度までに対2003年度比9%以上削減	未達 対2003年度比削減率8.7%
	電力使用量の削減(原単位)	2012年度までに対2004年度比25%以上削減	達成 対2004年度比削減率30.4%
4. 環境汚染の予防と対策の推進	EMS/OSHMSによる環境保全の推進		事例は21ページ

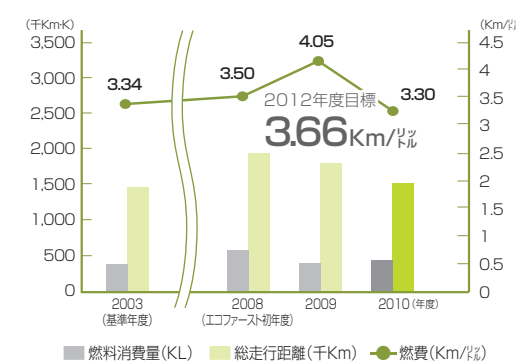
電子マニフェスト普及の推移



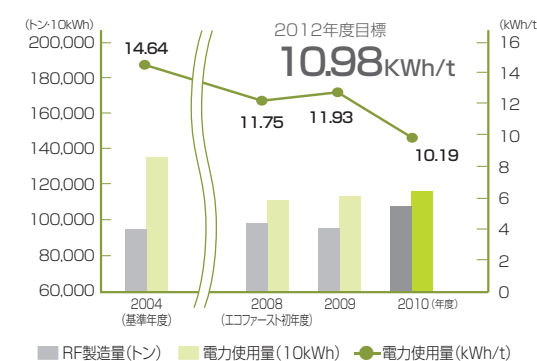
RF生産量とリサイクル率の推移



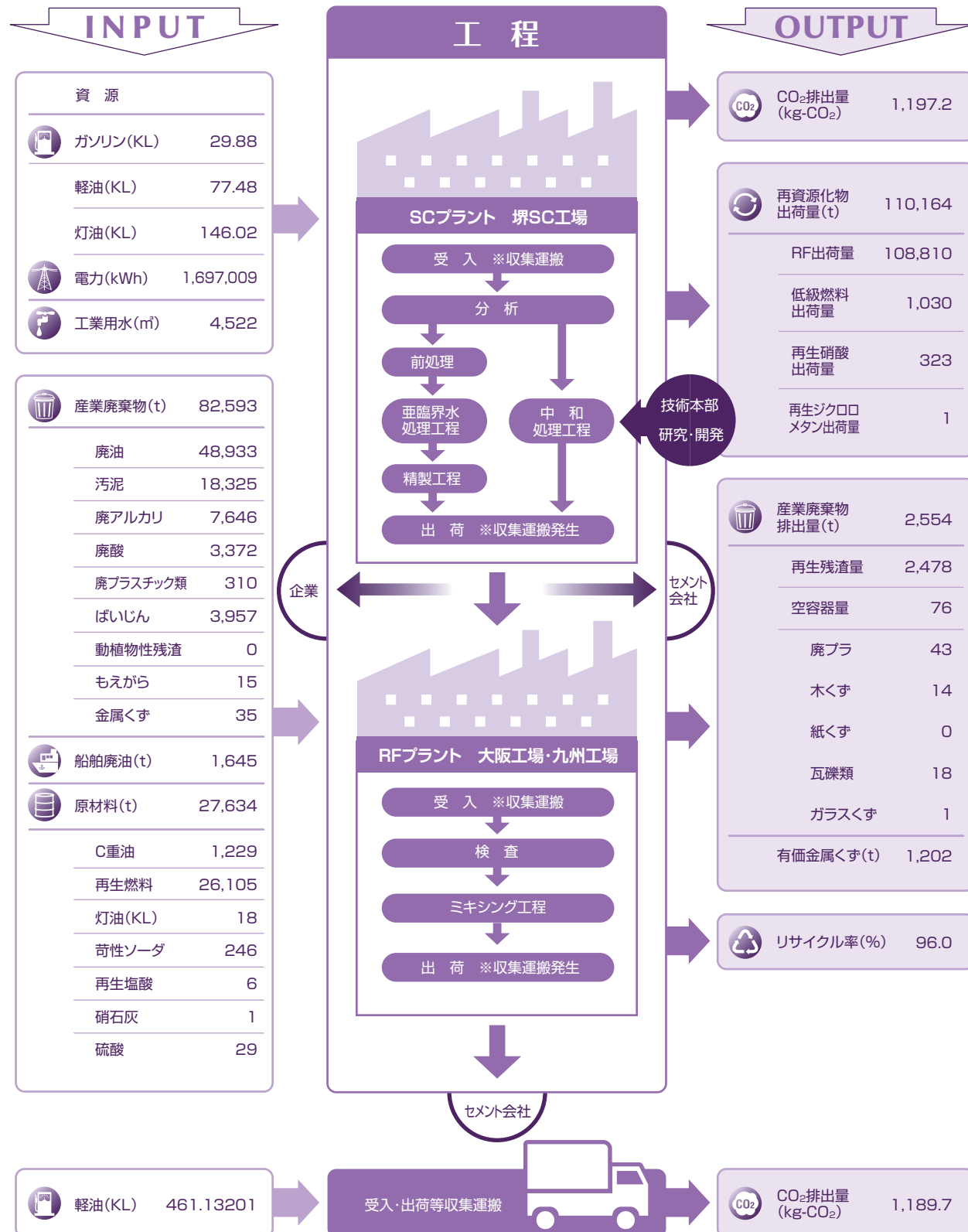
収集運搬車両使用燃料の推移



電力使用量の推移



2010年度環境負荷マテリアルフロー



2010年度サイト別データ

RF生産における環境パフォーマンスデータ				
	全社	大阪工場	九州工場	堺SC工場
ガソリン(KL)	29.88	10.14	19.18	0.56
軽油(KL)	77.48	8.17	61.49	7.82
灯油(KL)	146.02	0.02	0.00	146.00
電力(kWh)	1,697,009	581,981	527,204	587,824
工業用水(m³)	4,522	-	-	4,522
産業廃棄物(t)	82,593	46,208	35,355	1,030
廃油	48,933	29,398	19,151	384
汚泥	18,325	8,347	9,978	0
廃アルカリ	7,646	6,019	1,572	55
内 廃酸	3,372	1,936	845	591
訳 廃プラスチック類	310	249	61	0
ばいじん	3,957	259	3,698	0
動植物性残渣	0	0	0	0
もえがら	15	0	15	0
金属くず	35	0	35	0
船舶廃油(t)	1,645	-	1,645	-
原材料(t)	27,634	17,435	9,917	282
C重油	1,229	683	546	-
再生燃料	26,105	16,734	9,371	-
灯油(KL)	18	18	0	-
内 苛性ソーダ	246	-	-	246
訳 再生塩酸	6	-	-	6
硝石灰	1	-	-	1
硫酸	29	-	-	29

RF生産における環境パフォーマンスデータ				
	全社	大阪工場	九州工場	堺SC工場
CO2排出量 (kg-CO2)	1,197.2	215.8	397.7	583.7
再資源化物出荷量(t)	110,164	60,998	47,812	1,354
RF出荷量(t)	108,810	60,998	47,812	-
低級燃料出荷量(t)	1,030	-	-	1,030
再生硝酸出荷量(t)	323	-	-	323
再生ジクロロメタン出荷量(t)	1	-	-	1
産業廃棄物排出量(t)	2,554	1,306	1,127	121
再生残渣量	2,478	1,278	1,097	103
空容器量	76	28	30	18
廃プラ	43	19	24	0
内 木くず	14	8	6	0
訳 紙くず	0	0	0	0
瓦礫類	18	0	0	18
ガラスくず	1	1	0	0
有価金属くず(t)	1,202	596	547	59

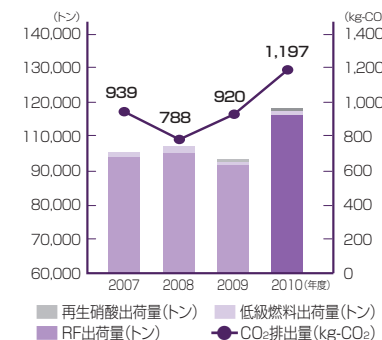
リサイクル率の計算式				
リサイクル率(%) = $\frac{(\text{受入量}-\text{残渣量}) \times 100}{\text{受入量}}$ = $\frac{(\text{受入廃棄物量}-\text{空容器量})-\text{再生残渣量}}{\text{受入廃棄物量}-\text{空容器量}} \times 100$				

リサイクル率の推移				
	全社	大阪工場	九州工場	堺SC工場
リサイクル率(%)	96.0	97.2	96.9	89.9

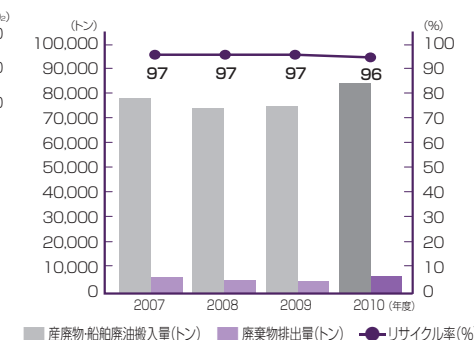
収集運搬における環境パフォーマンスデータ				
	全社	大阪工場	九州工場	
軽油使用量(KL)	461.132	176.26	284.872	

収集運搬における環境パフォーマンスデータ				
	全社	大阪工場	九州工場	
CO2排出量 (kg-CO2)	1,189.7	454.8	735.0	

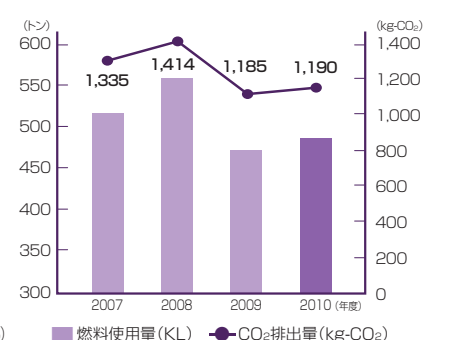
再資源化物とCO2排出量の推移



廃棄物とリサイクル率の推移



軽油使用量とCO2排出量の推移





環境会計

環境保全コスト(事業活動に応じた分類)			
分 類	主な取組の内容	投資額(千円)	費用額(千円)
1.事業エリア内コスト 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を制御する為の環境保全コスト 内訳 ①公害防止コスト ②地球環境保全コスト ③資源環境コスト	○公害防止設備の維持管理のためのコスト ○自社廃棄物(再生残渣・ドラム缶等の容器類)の処理・処分の為のコスト	0 0	6,817 86,149
2.上・下流コスト 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を制御する為のコスト			0
3.管理活動コスト 管理活動における環境保全コスト	○環境マネジメントシステム維持のためのコスト ○環境計測のためのコスト		51,546
4.研究開発コスト 研究開発活動における環境保全コスト	○廃棄物有効利用のための技術開発コスト	22,874	277,090
5.社会活動コスト 社会活動における環境保全コスト	○清掃・緑化等のためのコスト ○環境報告書作成のためのコスト		5,714
6.環境損傷対応コスト 環境損傷に対するコスト			0
合 計		22,874	427,316

環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)			
効果の内容			金額(千円)
収 益	環境保全活動による事業収入	魚類残渣処理プラント開発および運転技術指導他	559,150
		PCB汚染土壌浄化作業	204,866
		亜臨界水廃棄物処理プラント売却他	101,036
		不法投棄場汚染土壌浄化作業	91,444
		メタン醗酵開発技術協力他	7,768
		塩素量測定・予測業務	3,965
		廃棄物処理計画遂行手数料	22,200
		その他	
合 計			990,429

環境保全効果			
効果の内容		環境パフォーマンス	経済効果(千円)
上流又は下流で生じる環境保全効果	○化石燃料の削減(原油換算) 注1)	52,236KL	2,787,002
廃棄物の有効利用による削減効果	○最終処分場の延命 注2)	22,642t	566,050
合 計			3,353,052

注1)化石燃料の削減根拠:RF出荷量をカロリー評価し、総カロリー量を原油量に換算しました。経済効果は2010年3月31日における原油価格を乗じて算出しております。

注2)最終処分場の延命根拠:当社に搬入されました廃棄物のうち廃油、廃酸、廃アルカリを除きました廃棄物が管理型埋立処分された場合の金額を経済効果としました。管理型埋立処分価格は25,000円/トンとして算出しております。

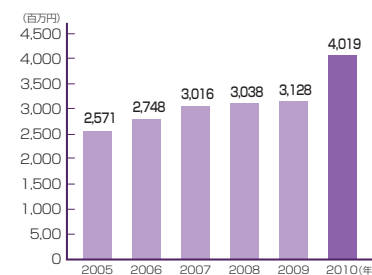
環境格付融資決定

2011年3月、株式会社池田泉州銀行より環境格付融資制度の第1号案件として1億円の融資を受けました。「環境格付融資制度」とは継続的な環境配慮型経営を金銭面から支援することを目指した融資で、リマテックは社会全体における産業廃棄物の最終処分量削減を実現している点、産業廃棄物処理業者としての社会的責任を果たすため意欲的に取り組んでいる点などを高く評価され最高ランクS(先進的)の格付けをいただきました。

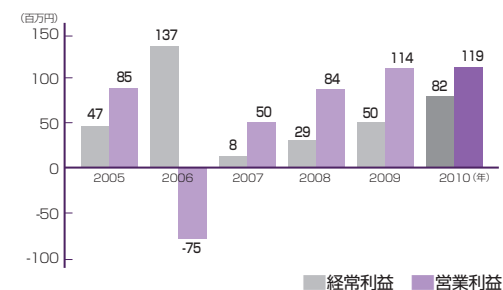


財務データ

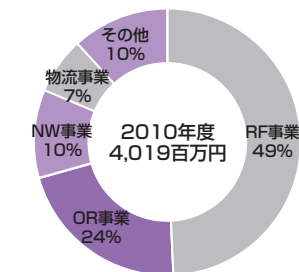
売上高の推移



営業利益と経常利益の推移



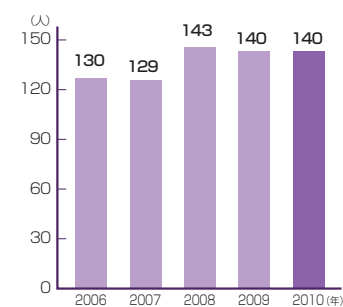
セグメント別売上高



人事データ

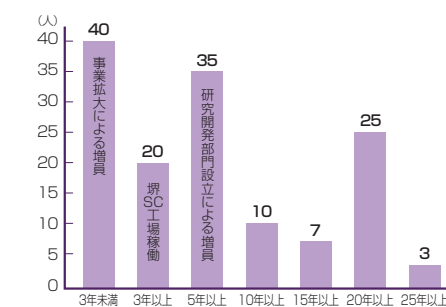
2011年3月現在 社員数(正社員・出向社員・派遣社員・パート含)

社員数の推移

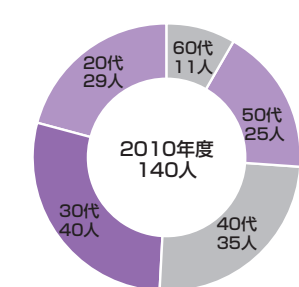


※2010年度RTT分社化による20人転籍

勤続年数



年齢層別社員数



※60代再雇用者10人含

リマテックCSR報告書2011 概要

報告対象期間

2010年4月1日～2011年3月31日
※一部、2010年3月以前、2011年4月以降の取り組みについても報告しています。

報告対象組織

リマテック株式会社 生産本部/営業本部/技術本部/経営本部

報告書発行日

2011年10月

過去の発行実績

リマテックでは2000年度から毎年報告書を発行しています。



情報開示体系

このレポートは、リマテックのCSR活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは、各事業詳細や日々の活動をリアルタイムに更新しておりますので、是非ご覧ください。
<http://www.rematec.co.jp>

参照ガイドライン

GRI 「サステナビリティレポートガイドライン」
環境省 「環境報告ガイドライン2007年版」
「環境会計ガイドライン2005年版」
「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

本報告書に関するお問い合わせ先

リマテック株式会社 CSRレポート作成事務局
〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11番地の1
メール:report@rematec.co.jp

免責事項

本報告書には、「リマテック株式会社」の過去と現在の事実だけでなく、公開日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性がありますことをご了解いただけますようお願いいたします。

施設概要

大阪工場



施設の種類の品目	中間処理施設（混練による燃料化） ■普通産業廃棄物/燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残渣、ばいじん ■特別管理産業廃棄物/汚泥、廃油、廃アルカリ（限定あり）
設置年月日	1993年7月1日
処理施設敷地面積	917.94m ²
受入能力	流動性廃棄物 600t 固形廃棄物 150t
処理能力	200m ³ /日（8h）
処理方式	混練による燃料化
稼働時間	8h（8時30分～17時30分）
設備・構造の概要	混練設備（一次攪拌ミキサー：2基、二次攪拌ミキサー：1基）
環境保全対策	各機器は密閉構造とし、プレフィルター方式ならびに活性炭方式による脱臭設備、集塵装置による粉じんの防止

九州工場



施設の種類の品目（中和）	中間処理施設（中和）および中間処理施設（混合） ■普通産業廃棄物/廃酸、廃アルカリ ■特別管理産業廃棄物/廃酸、廃アルカリ（限定あり）
品目（混合）	■普通産業廃棄物/燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、動植物性残渣、ばいじん、紙くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず等、陶磁器くず、鉱さい ■特別管理産業廃棄物/汚泥、廃油、廃アルカリ（限定あり）
設置年月日	1998年7月23日
処理施設敷地面積	1290m ²
受入能力	流動性廃棄物 1615m ³ 固形廃棄物 634m ³
処理能力	中和施設 150m ³ /日（8h） 混合施設 192m ³ /日（8h）
処理方式	中和・混合
稼働時間	8h（8時～17時）
設備・構造の概要	混練設備（一次攪拌ミキサー：1基、二次攪拌ミキサー：1基）
環境保全対策	各機器は密閉構造とし、活性炭方式による脱臭設備。排水設備は構内用と山間用を分離し2重構造とし、構内の雨水及び生活排水は排水処理設備にて処理を行った後、放流。

堺SC工場



施設の種類の品目	中間処理施設（亜臨界面水反応処理施設、弱酸遊離反応処理施設） ■普通産業廃棄物/汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、木くず、廃プラスチック類、動植物性残渣、家畜ふん尿 ■特別管理産業廃棄物/汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ（限定あり）
設置年月日	2006年5月31日
処理施設敷地面積	1612.9m ²
受入能力	528m ³
処理能力	■亜臨界面水反応（再資源化） 70t/日（24h/日） ■弱酸遊離反応 7t/日（24h/日）
処理方式	亜臨界面水反応処理、弱酸遊離反応処理
稼働時間	24h（0時～24時）
施設の概要	亜臨界面水プラント（受入、前処理、蒸留、三相分離、調整、反応塔などの各設備より構成）

許可情報

- 産業廃棄物処分業

■特別管理産業廃棄物処分業

■産業廃棄物収集運搬業

■特別管理産業廃棄物収集運搬業

■特定建設業

■特定人材派遣業

■廃油処理業

加入団体

- 社団法人 大阪府産業廃棄物協会

■社団法人 大分県産業廃棄物協会

■その他産業廃棄物協会

■関西経済同友会

■環境文明21

■海上防災事業者協会

■廃棄物学会

■資源リサイクルシステムセンター

リマテック株式会社

REMATEC Corporation



設 立：1974年11月10日
 資本金：1億2,200万円
 従業員：143名（2011年4月1日現在）
 取引銀行：三菱東京UFJ銀行、池田泉州銀行、日本政策投資銀行
 商工組合中央金庫、岩手銀行、大分銀行

- 主な事業内容：
 - 産業廃棄物処理、収集、運搬業務
 - 再資源化物の販売
 - 廃棄物資源化プラントの設計、製作及び販売
 - 廃棄物再資源化機器有効活用のためのノウハウ、技術指導及び技術者教育養成の委託業務
 - 廃棄物再資源化のエンジニアリング業務
 - タンク、ビット、油水分離槽等の清掃

リマテック(株)

本社/大阪工場	〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11番地の1 Tel:072-438-6434/Fax:072-422-3617
九州工場	〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906番地 Tel:0974-32-7721/Fax:0974-32-7731
堺SC工場	〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2番4 Tel:072-280-0525/Fax:072-280-0526
本町オフィス	〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1丁目2番12号 本町平成ビル7F Tel:06-6532-0722/Fax:06-6532-0566
東北支社	〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-6-19 大通ビル3F Tel:019-681-7391/Fax:019-681-6392
藤原事業所	〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1 太平洋セメント株式会社 藤原工場内 Tel:0594-46-4544/Fax:0594-46-4544
南港事業所	〒559-0032 大阪府大阪市住之江区南港7丁目 関西電力株式会社 南港発電所内 Tel:06-6613-7761/Fax:06-6613-7761
津久見事業所	〒879-2474 大分県津久見市大字徳浦字 ツムロギ2303番地 太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内 Tel:0972-82-9055/Fax:0972-82-7025
大船渡事業所	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字跡浜21番地6

関連会社

（株）トライエス	〒590-0908 大阪府堺市堺区匠町18番地 グリーンフロント堺 創知村B棟2階1号 Tel:072-320-9238/Fax:072-320-9239
----------	--



グループ会社

株式会社リマテッククリーン

所在地	〒800-0025 北九州市門司区柳町1丁目9番23号 東進ビル2F Tel:093-371-3340/Fax:093-371-3074
設 立	2005年4月1日
資本金	1,000万円
株 主	リマテック株式会社100%
従業員	24名（2011年4月1日）
取引銀行	三菱東京UFJ銀行、福岡銀行、西日本シティ銀行
事業内容	各種燃料タンクの洗浄工事、プラント配管の洗浄工事 定修工事時の触媒入替作業、ビット等の内部清掃作業
主な取引先	日鉄環境エンジニアリング(株)、東邦工業(株)、エムコムス(株) カクタス産業(株)、日進工業(株)、リマテック(株)
事業の特徴	国家石油備蓄基地をはじめとして、全国の石油系・石炭系の燃料タンクを、近代的な機械による洗浄工法を採用することにより、安全第一・作業環境の改善をモットーに事業に取り組んでいます。

RTT株式会社

所在地	〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2番4 Tel:072-280-0672 /Fax:072-280-0673
設 立	2010年6月24日
資本金	900万円
株 主	リマテック株式会社 三岐通運株式会社
従業員	22名（2011年4月1日現在）
取引銀行	三菱東京UFJ銀行、池田泉州銀行、商工組合中央金庫
事業内容	貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、産業廃棄物収集運搬業 タンク、ビット、油水分離層等の清掃業務、労働者派遣事業 その他